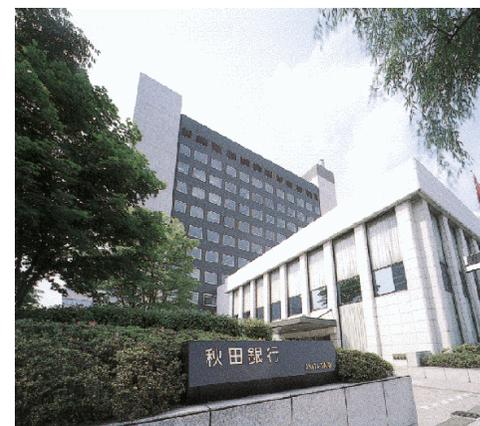


平成20年度 会社説明会

平成20年 6月 4日



株式会社 秋田銀行



決算状況

19年度損益の概要（単体）	1
コア業務純益増減要因（単体）	2
預貸金の推移	3
利回りの推移	4
有価証券残高の推移	5
預り資産残高の推移	6
役務取引等利益	7
経費の推移	8
主要経営指標の推移	9
与信費用の推移	10
不良債権の状況	11

経営戦略

17～19年度中期経営計画の総括	12
20～21年度中期経営計画の概要	13
収益計画および経営指標	14
預貸金予算および経営指標	15
資金利益シミュレーション	16
秋田県内 地区別預金シェアの推移	17
秋田県内 地区別預金シェアの推移	18
貸出金マーケット別推移	19
法人部門戦略	20～22
個人部門戦略	23～26
有価証券運用の強化	27
次期システム戦略	28
資本政策	29～30

決算状況

19年度損益の概要(単体)

- ✦ 役務取引等利益の減少分を資金利益の増加でカバーしたものの、クレジットカード本体発行などの戦略的投資により物件費が増加したことから、コア業務純益は18年度比6億円減少し**102億円**となった。
- ✦ 株式市場下落により減損処理30億円を実施したことから経常利益および当期純利益とも減少、当期純利益は18年度比14億円減少し**35億円**となった。

(億円)

	18年度	19年度	増減額
業務粗利益	341	361	20
うち資金利益	324	327	3
うち役務取引等利益	41	38	3
うち国債等債券売却損益	21	14	35
うち国債等債券償却()	0	16	16
経費	254	261	7
うち人件費	127	126	1
うち物件費	114	122	8
一般貸倒引当金繰入額()	16	2	18
業務純益	104	99	5
コア業務純益	109	102	7
臨時損益	9	22	13
うち不良債権処理額	32	24	8
うち株式等償却	2	14	12
経常利益	95	76	17
特別損益	4	7	3
うち新規引当金繰入額()	-	3	3
当期純利益	49	35	14

資金利益の増減内訳(億円)

	平残	利回	計
貸出金	+1	+24	+25
有価証券	+1	+3	+4
余資等	0	+5	+5
預金()	0	+31	+31

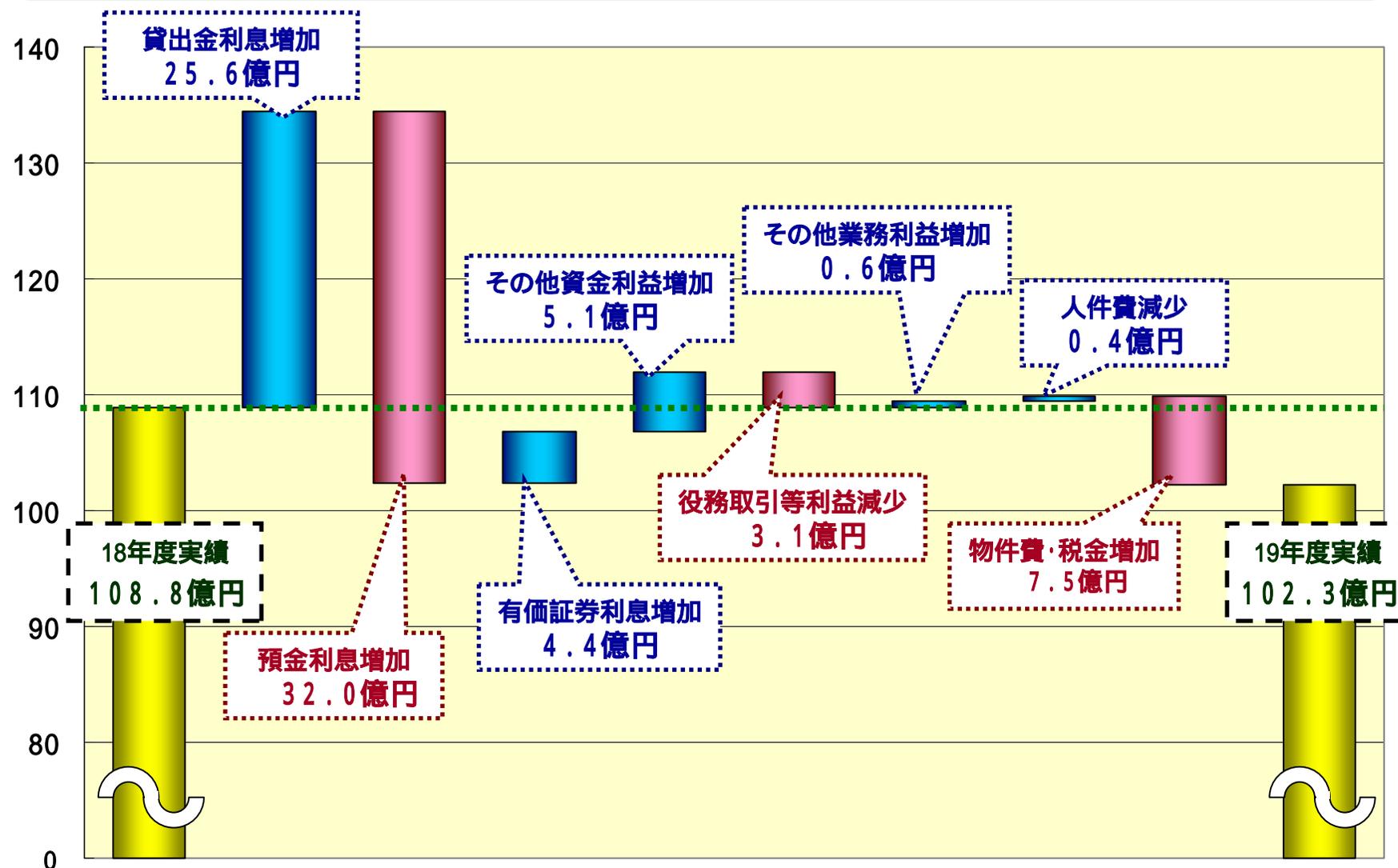
簿価に対して30%以上時価が下落した有価証券に関しては全て減損を行うとの厳格なルールにもとづき、計30億円の減損処理を実施

不良債権比率削減をはかるための債権売却にともない16億円の2次ロスが発生
個別貸倒引当金繰入額は15億円(前期比 12億円)と大幅に減少

役員退職慰労引当金および睡眠預金払戻引当金繰入額

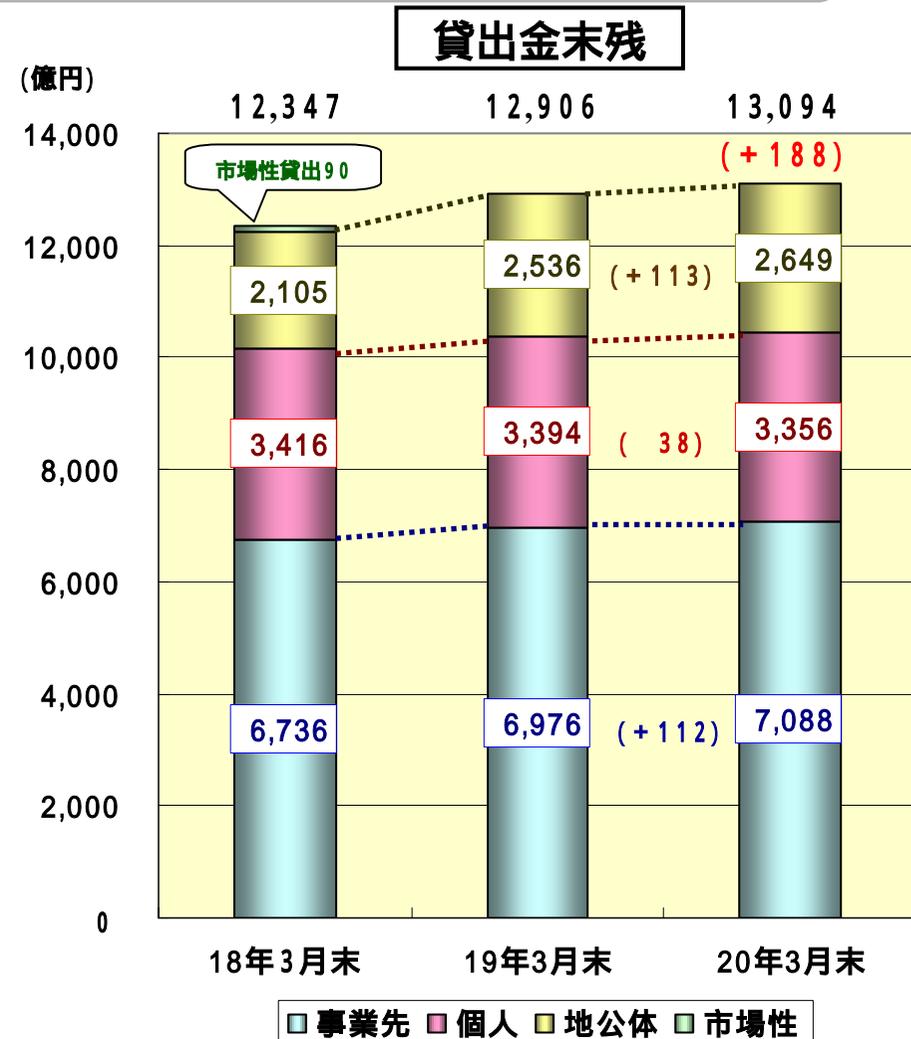
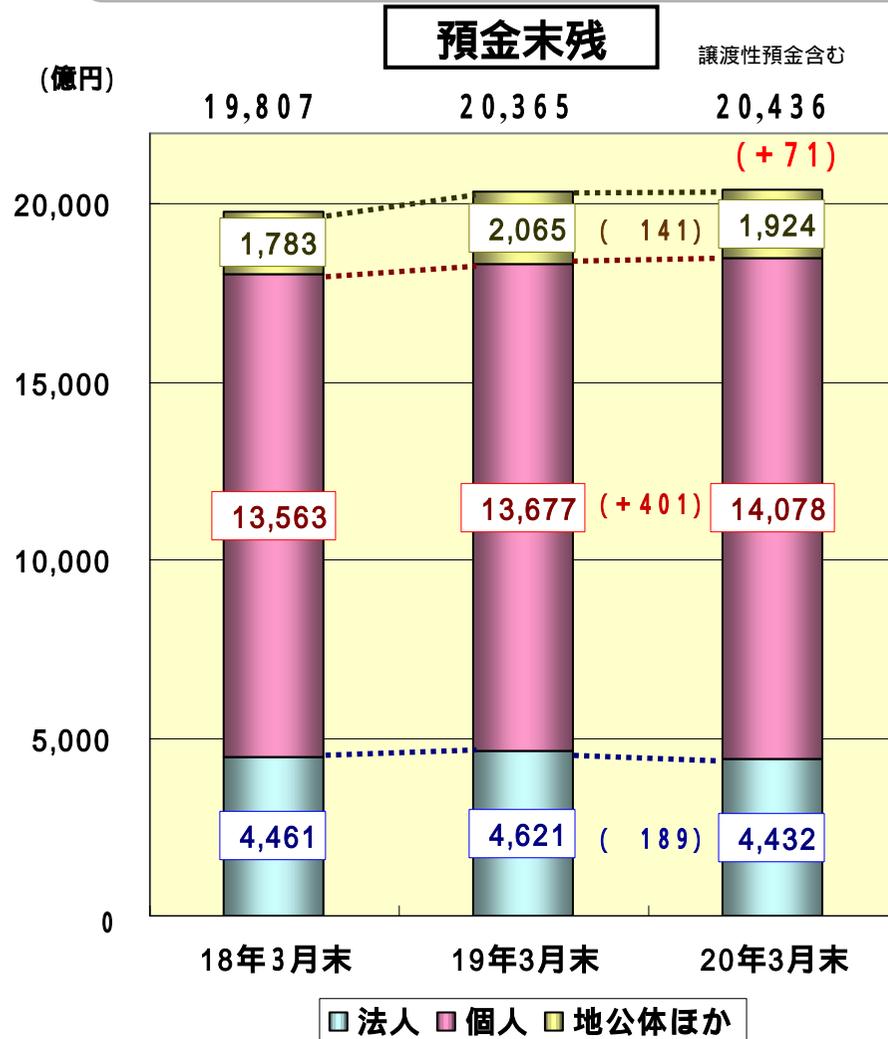
コア業務純益増減要因(単体)

† 資金利益総体では3.1億円増加、役務取引等利益は預り資産関連手数料減少を主因に3.1億円減少、税制改正およびATM一括更新等により物件費は7.5億円増加



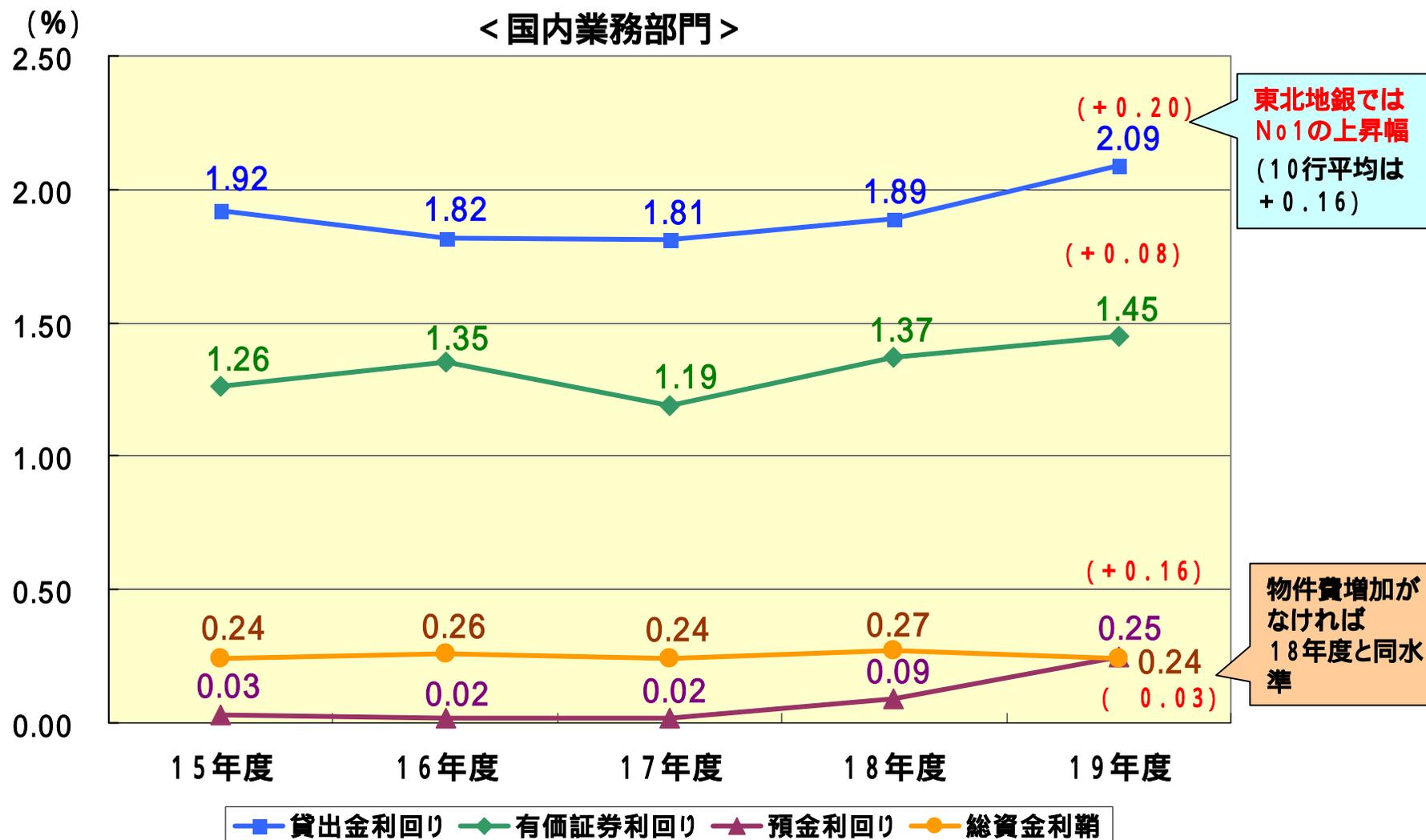
預貸金の推移

- ✦ 預金は個人預金の増加(+2.9%)を主因に71億円増加、個人預金は1兆4千億円台へ
- ✦ 貸出金は事業先、地公体向けの増加により188億円増加し、1兆3千億円台へ



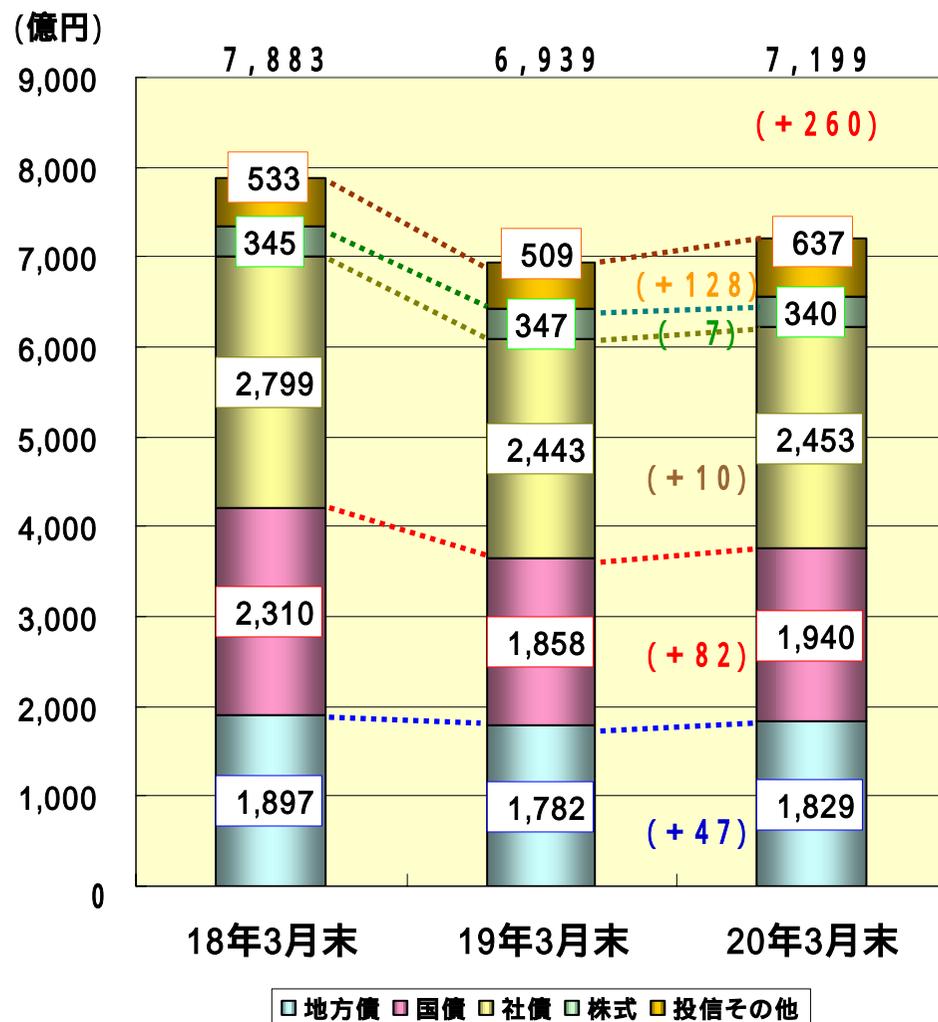
利回りの推移

- ✦ 貸出金利回りは20bp上昇と預金利回りの16bp上昇を上回り、資金利益の増加要因に
- ✦ 総資金利鞘は経費増加にともない18年度比0.03bp減少



有価証券残高の推移

- ✦ 投信および国債の残高積増しを主因に、総体では260億円残高増
- ✦ 減損処理を30億円実施するも、全体では225億円の含み益を維持



有価証券評価損益の推移

有価証券評価損益	(億円)		
	19年3月末	20年3月末	増減
合計	475	225	250
(うち株式)	460	248	212
(うち債券)	34	17	51
(うちその他)	49	40	89

有価証券含み益が0になる水準

日経平均 … 9,093円
 (5月30日現在 14,338円)
 TOPIX … 911P
 (5月30日現在 1,408P)
 10年国債指標金利… 2.79%
 (5月30日現在 1.75%)

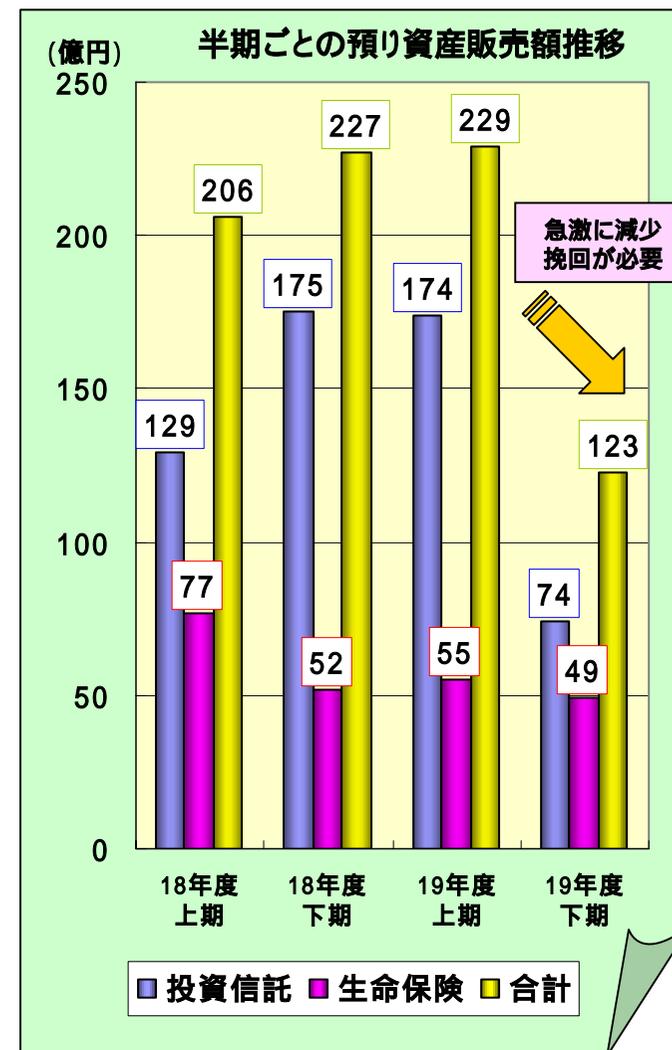
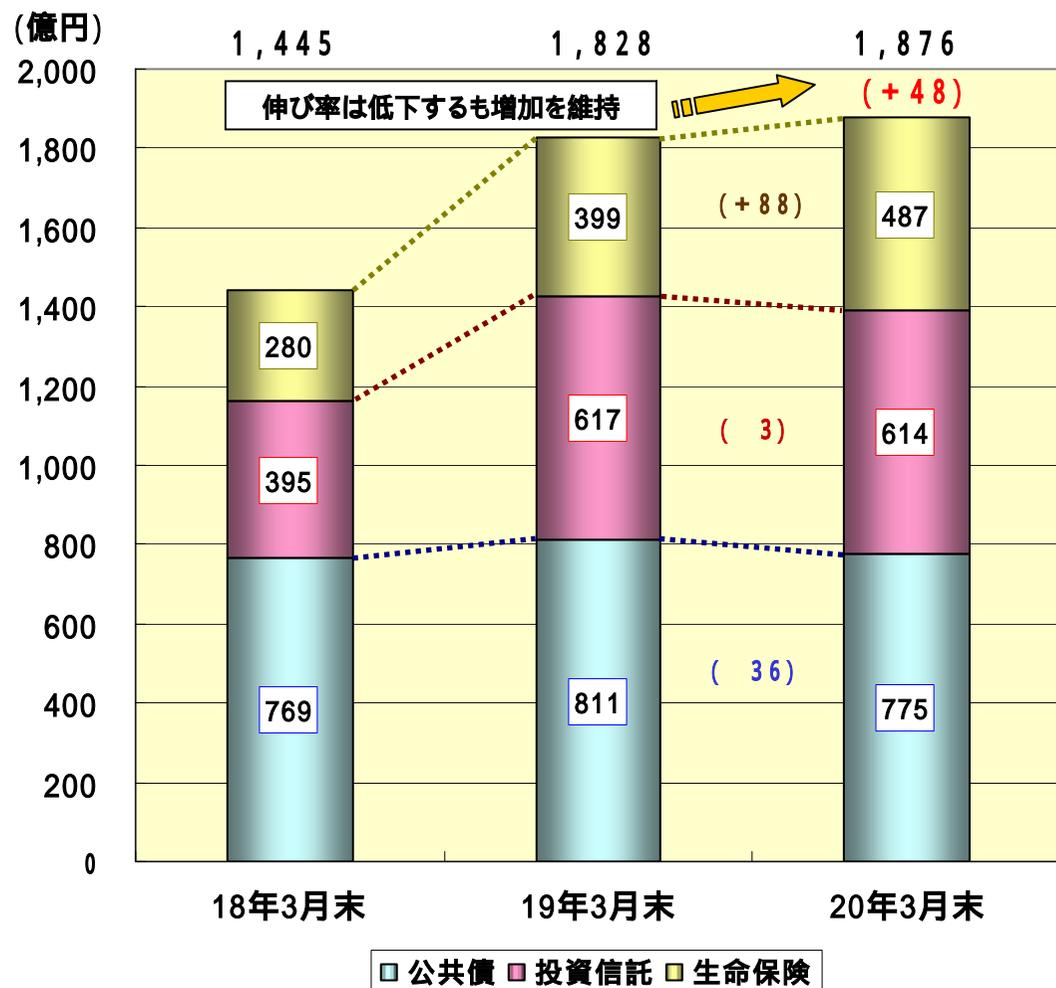
現在の相場水準から見て十分余力ある含み益を維持、今後とも自己資本比率を低下させる要因となる懸念は僅少

アウトライヤー比率

(金利ショック幅：99パーセントイル基準)
 14.84% (19年3月末対比 +3.20%)

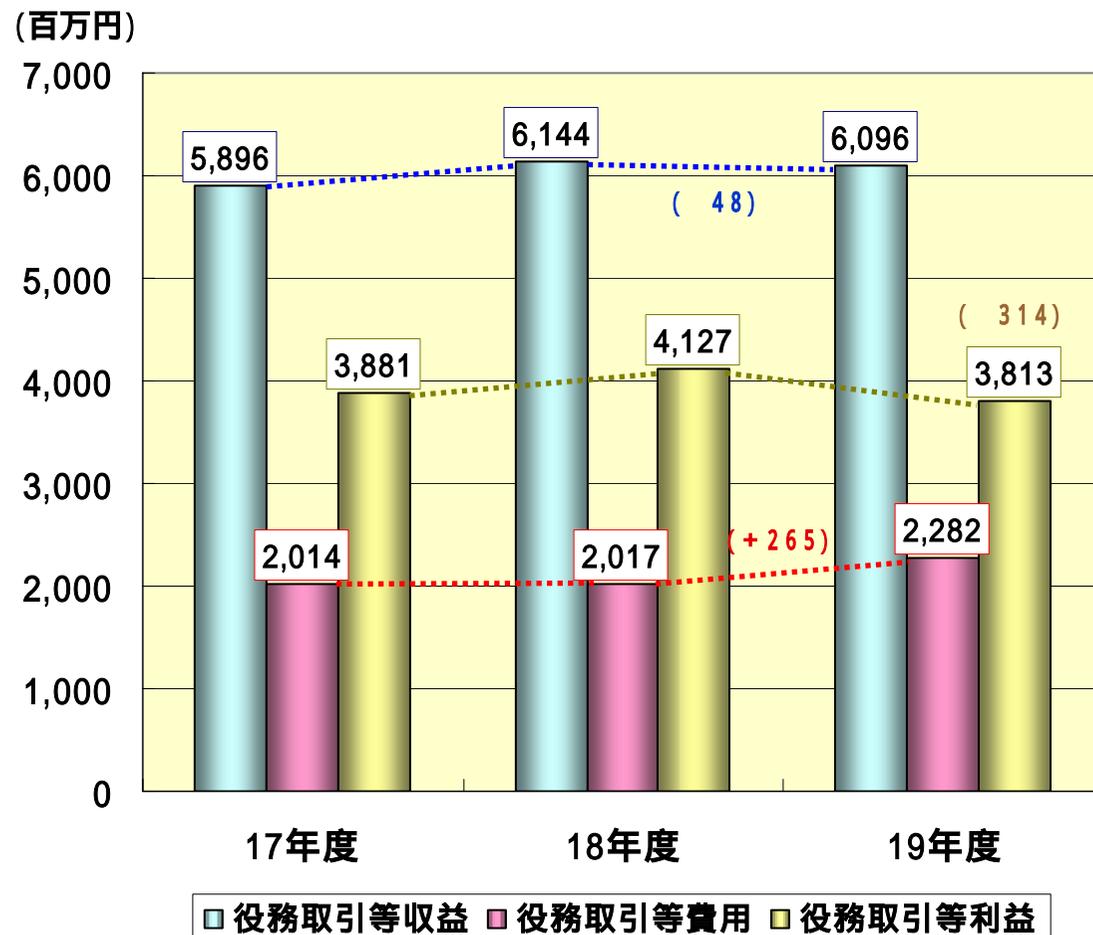
預り資産残高の推移

★ 金商法施行および相場低迷による販売額減少ならびに基準価格下落により投信残高は若干減少、一方保険残高は堅調に推移し全体では増加基調を維持



役務取引等利益

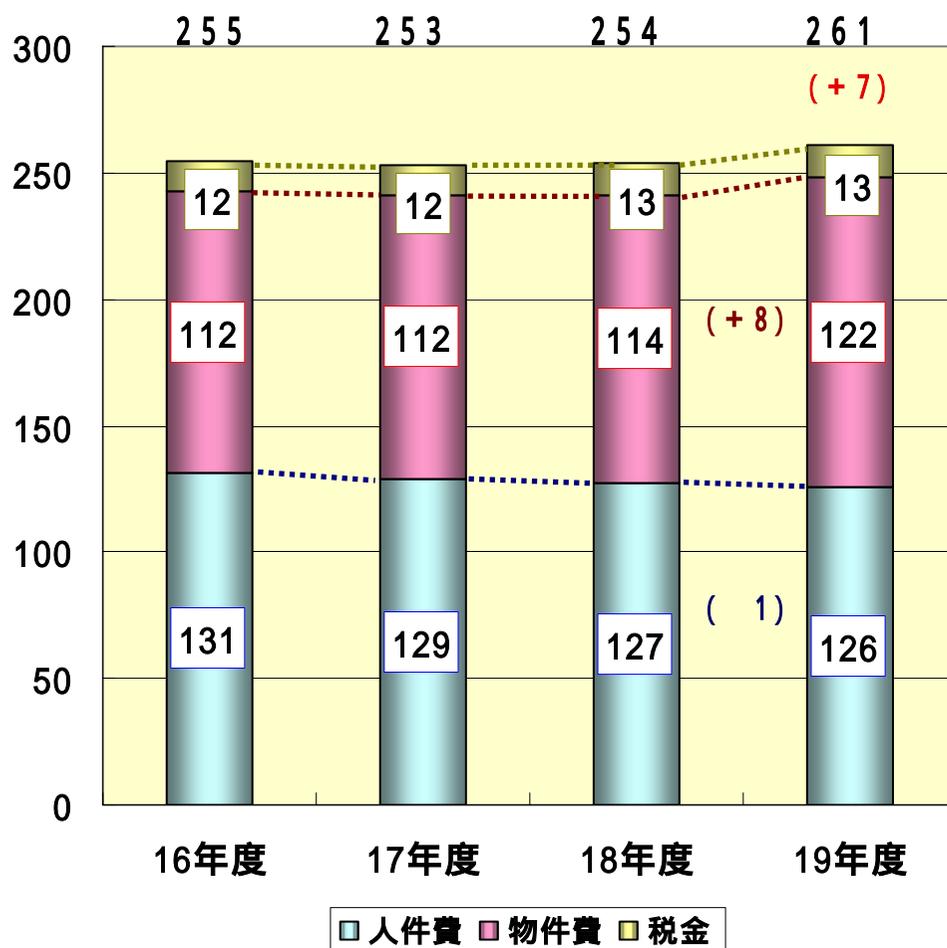
✦ 預り資産販売額減少による収益減少をクレジット関連手数料でカバーしたものの、融資保険料戻入額減少等により費用が増加したことから総体では3億円の減少となった。



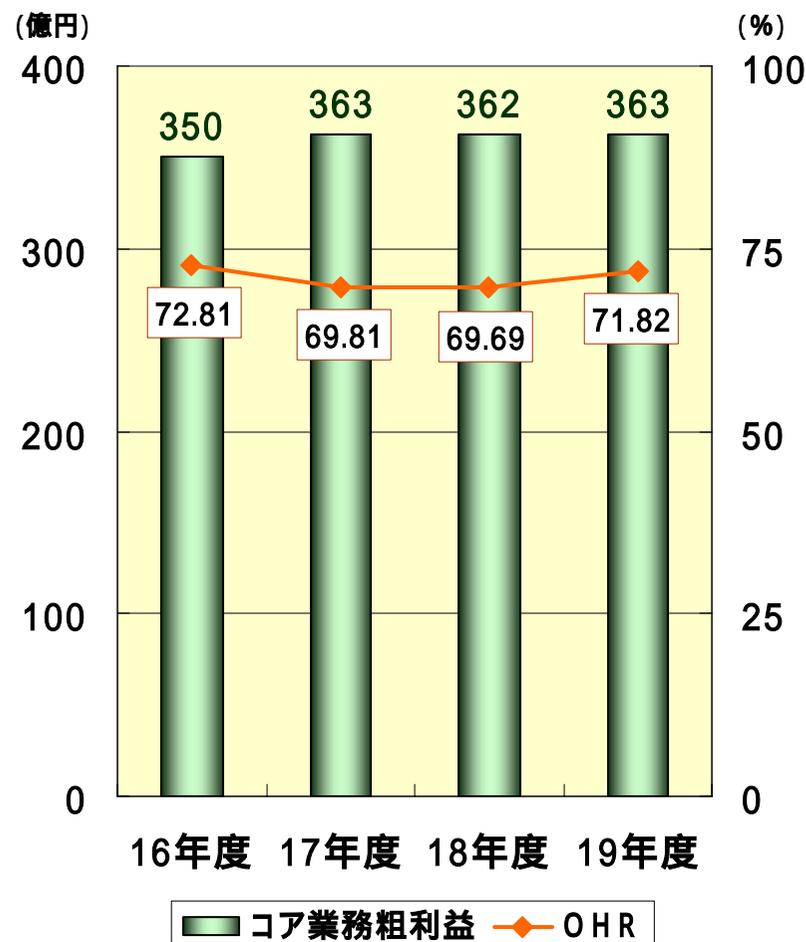
経費の推移

✦ 個人部門戦略として生体認証機能付クレジット一体型ICキャッシュカードを発行、ATM128台の一括更新などにもない物件費は8億円増加、OHRは70%台へ

<経費の内訳 推移>

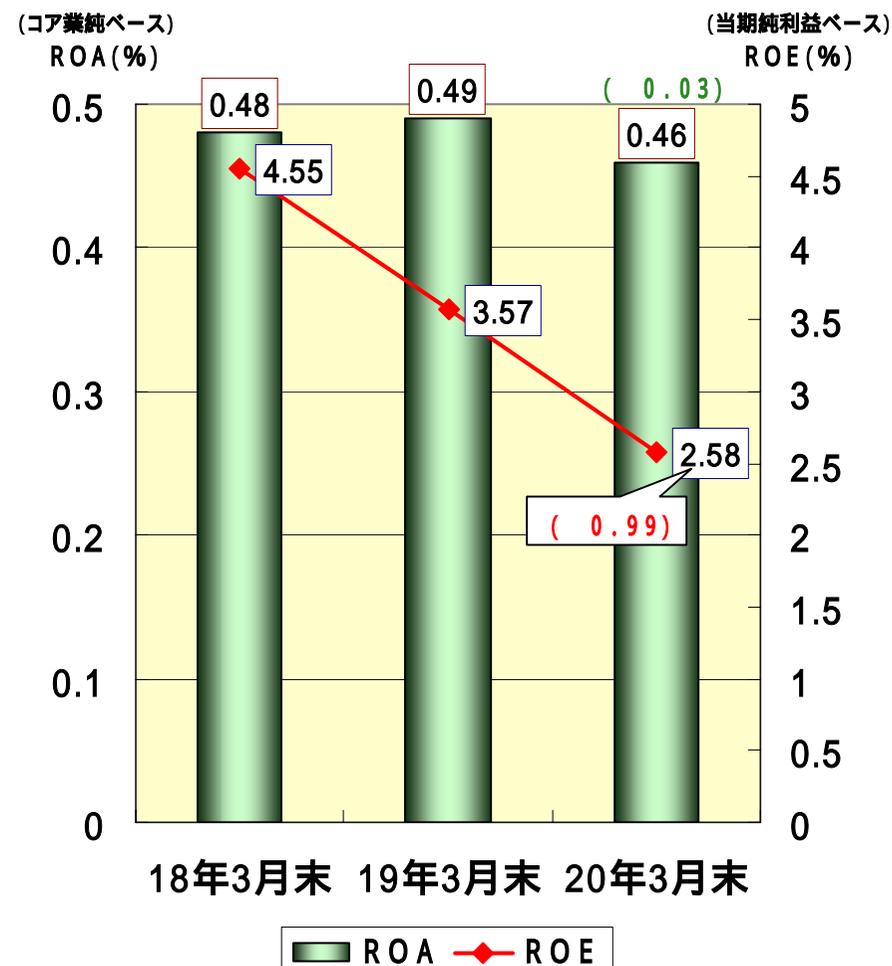
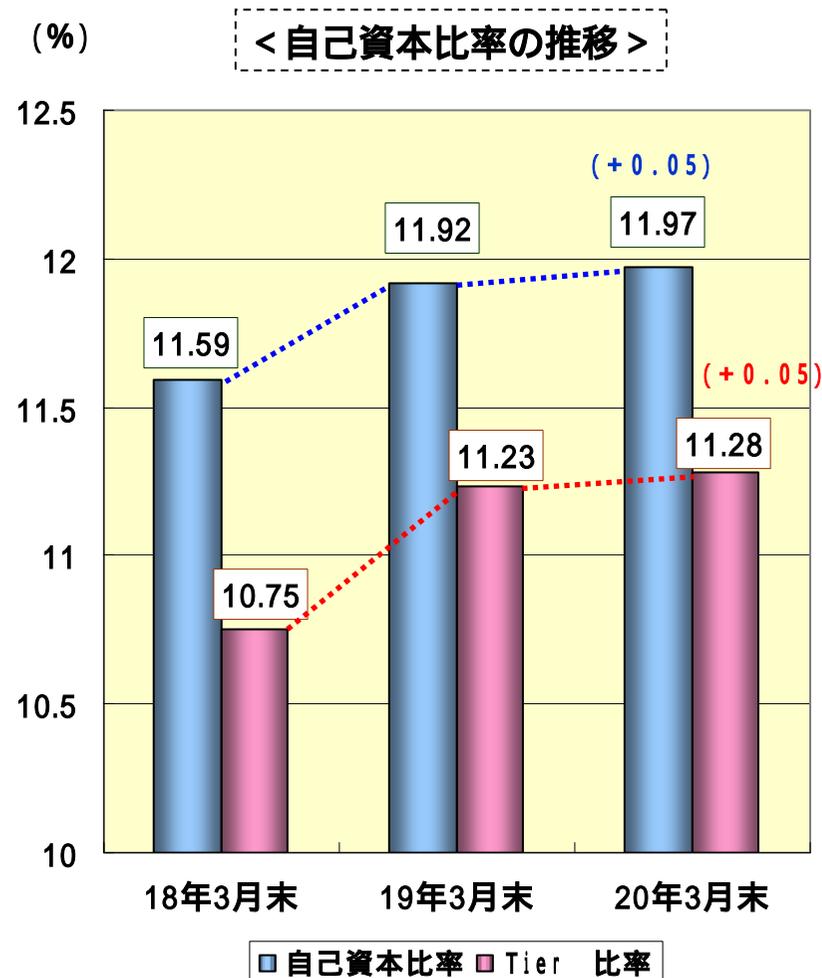


<コア業務粗利益とOHRの推移>



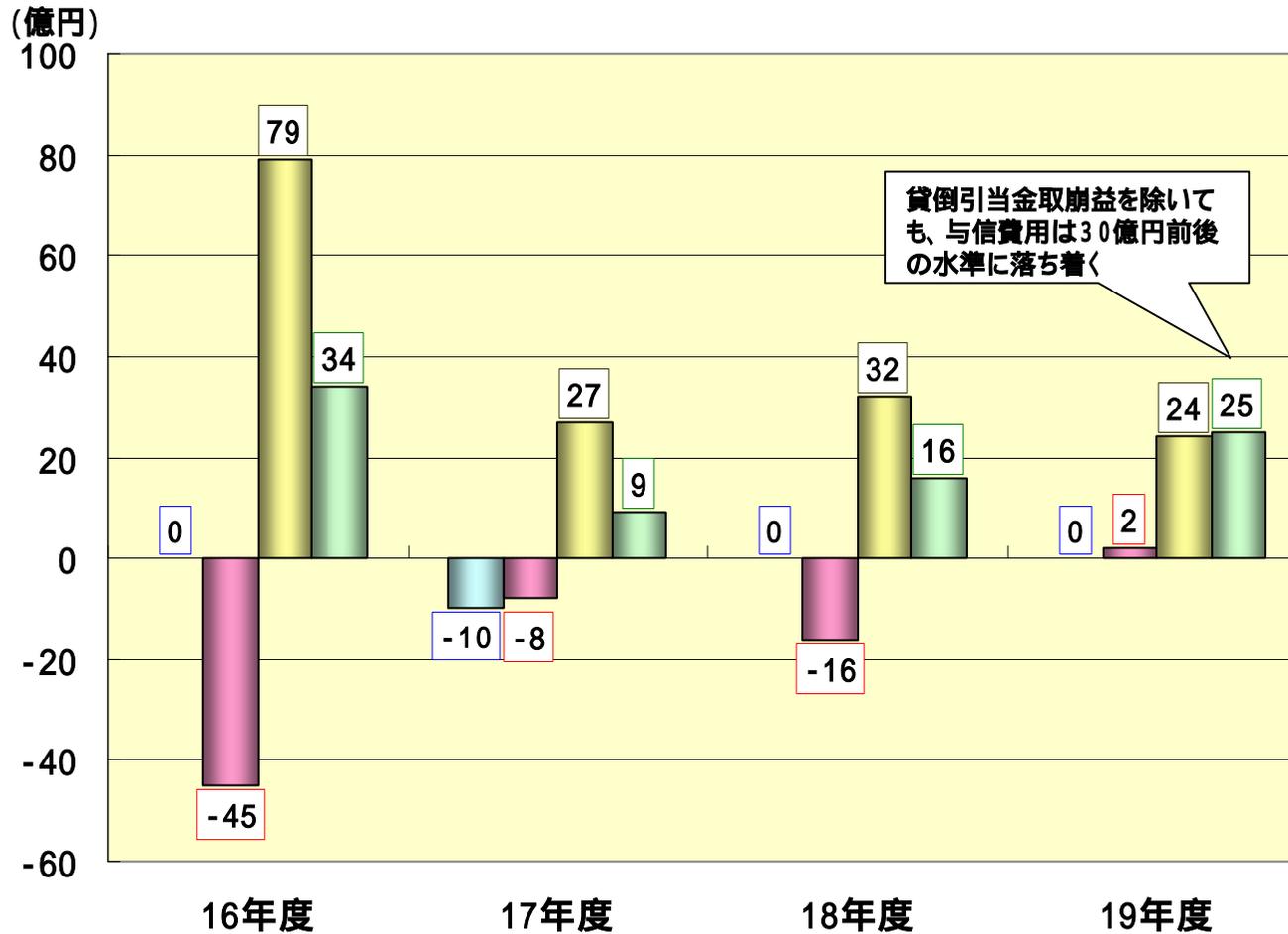
主要経営指標の推移

- ✦ 自己株償却12億円を実施したが、自己資本比率、Tier 比率とも過去最高を更新
- ✦ ROA、ROEは物件費の増加および減損処理の影響によりやや低下



与信費用の推移

✦ 積極的な不良債権処理による2次ロス発生にともない微増するも、与信費用比率19bp (18年度比+7)と低水準で推移



■ 貸倒引当金戻入額 ■ 一般貸倒引当金繰入額 ■ 不良債権処理費用 ■ 与信費用

貸倒実績率・引当金

貸倒実績率の推移

	20年3月期	増減
正常先	0.16%	0.02p
その他の要注意先	1.55%	0.08p
要管理先	12.76%	5.02p
破綻懸念先	50.75%	2.32p

貸倒引当金の推移 (億円)

	20年3月期	増減
正常先	14	2
その他の要注意先	14	2
要管理先	13	1
破綻懸念先	73	24
実質破綻先	101	19
破綻先	30	3
合計	245	45

不良債権減少に合わせ
個別貸倒引当金が大きく減少

不良債権の状況

✦ 不良債権比率4.86% (金融再生法ベース)、19年度比 0.28pと着実に低下

(単位:億円)

自己査定における債務者区分別(償却後) (対象:総与信)				
	非分類	分類	分類	分類
破綻先 52	32	20	-	-
実質破綻先 160	118	42	-	-
破綻懸念先 357	177	116	64	
要注意先 998	要管理先 101	411	587	
	要管理先 以外の 要注意先 897			
正常先 11,677	11,677			
合計 13,246	12,416	766	64	-

金融再生法に基づく開示債権 (対象:総与信)	
破綻更生債権及び これらに準じる債権 213	
危険債権 357	
要管理債権 74	小計 644
正常債権 12,602	
合計 13,246	

リスク管理債権 (対象:貸出金)	
破綻先債権 52	
延滞債権 514	
3か月以上延滞債権 -	
貸出条件緩和債権 74	合計 640

5%を切る水準まで低下
健全化は着実に進展

不良債権比率 4.86%

不良債権比率 4.88%

(部分直接償却)
不良債権比率 3.91%

(部分直接償却)
不良債権比率 3.93%

経営戦略

17～19年度 中期経営計画の総括

17～19年度中期経営計画目標の達成状況

(金額: 億円)

項目	当初目標	19年度予想	実績	目標対比
営業店一般貸出金(未残)	10,154	10,281	10,280	126
コア業務純益	114	97	102	12
当期純利益	51	50	35	16
不良債権額(金融再生法ベース)	700	655以下	643	57

事業先向け貸出が好調に推移

税制改正や戦略的投資などによる
物件費の増加が影響

株式償却や不良債権処理費用などの
掛かり増しで未達

18年度に1年前倒しで目標達成

重点方針

収益・コスト構造の改革	コア業務純益が目標を下回っており、 収益構造は改革途上にある。
地域への貢献	金融経済教育などのCSR活動に加え、 ソリューション営業の積極展開により、 地域から高い評価を受けた。
貸出資産の健全化	不良債権残高の中期経営計画目標を 18年度に前倒しで達成するなど健全化は 着実に進んだ。
組織の活性化	若手行員の意見を汲み上げる委員会 の設置や公募制度の充実などを進めた が、収益力の強化・お客様支持の拡大を 実現するうえでは行内の積極性・スピード 感をさらに高める必要がある。

今後の課題

実収の拡大など収益構造の改革推進
さらなる不良債権の圧縮
お客様・地域からの支持拡大
組織風土の変革

取組み姿勢

これまでの延長線上ではなく、1ランク上の
水準へ進化するため、進取の気風とスピード感
を持って課題に挑戦する。

20～21年度 中期経営計画の概要

進取の気風とスピード感を持って環境の変化に対応し、1ランク上の銀行へ**進化**する。

経済・社会情勢

秋田県の人口減少
地域間の経済格差拡大

秋田県内での預貸金シェアアップ
県外(貸出)・市場での運用強化

業界環境

ゆうちょ銀行の業務拡大
イオン銀行の新規参入
地域金融機関の経営統合

他行以上の利便性提供
幅広い層からの支持拡大

金融制度

規制緩和
・ 保険窓販全面解禁
法規制の強化
・ 金融商品取引法
・ 顧客保護管理態勢の強化

預り資産販売体制の見直し・強化
コンプライアンス意識の高揚と定着

「輝きと存在感を持って、お客様と地域から圧倒的に支持されるときともに、地域発展に貢献できる銀行」

中期的に
目標とする姿

あきぎん Evolution < 1st Stage >

～ 新たな飛躍に向けてブレイクスルー～

重点方針

収益構造の改革

コア業務粗利益の拡大、次期システム移行後を睨んだコスト構造の改革、不良債権の圧縮を通して収益構造の改革を目指す。

お客様支持の向上

取引先企業の支援・CS活動等を通じたお客様との強いきずなの醸成、地域発展に向けた活動の実施とともに、ATMネットワーク網などの整備を進め、お客様から圧倒的に支持される銀行を目指す。

組織風土の変革

各種施策・運動を通して、一人ひとりが進取の気風にあふれ、高いコンプライアンス意識を持って行動する組織風土への変革を目指す。

2年間(20年4月～22年3月)

22年5月 次期システム移行

変化の激しい金融環境に対応すべく、2年間という短期間のサイクルで経営計画を推進していく。

21年5月 創業130周年

[単体]

(億円)

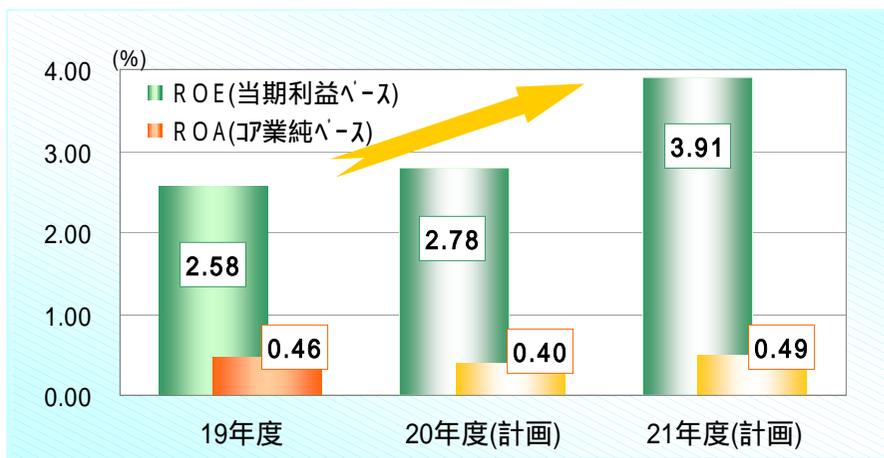
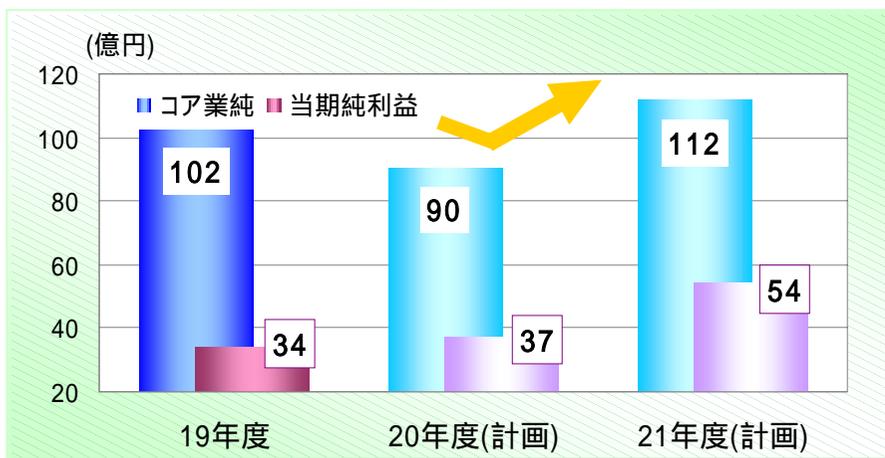
	19年度	20年度		21年度	
	決算	計画	19対比	計画	19対比
コア業務粗利益	363	367	4	383	20
うち資金利益	327	325	2	338	11
役務取引等利益	38	42	4	45	7
経費	261	276	15	272	11
うち人件費	126	127	1	128	2
物件費	122	134	12	129	7
コア業務純益	102	90	12	110	8
一般貸倒引当金繰入額()	2	1	3	1	3
臨時損益	22	17	5	13	9
うち不良債権処理額()	24	23	1	19	5
経常利益	76	68	8	93	17
当期利益	35	37	2	54	19

投信、生保の販売体制強化、
クレジットカード業務の強化など
により増加を見込む

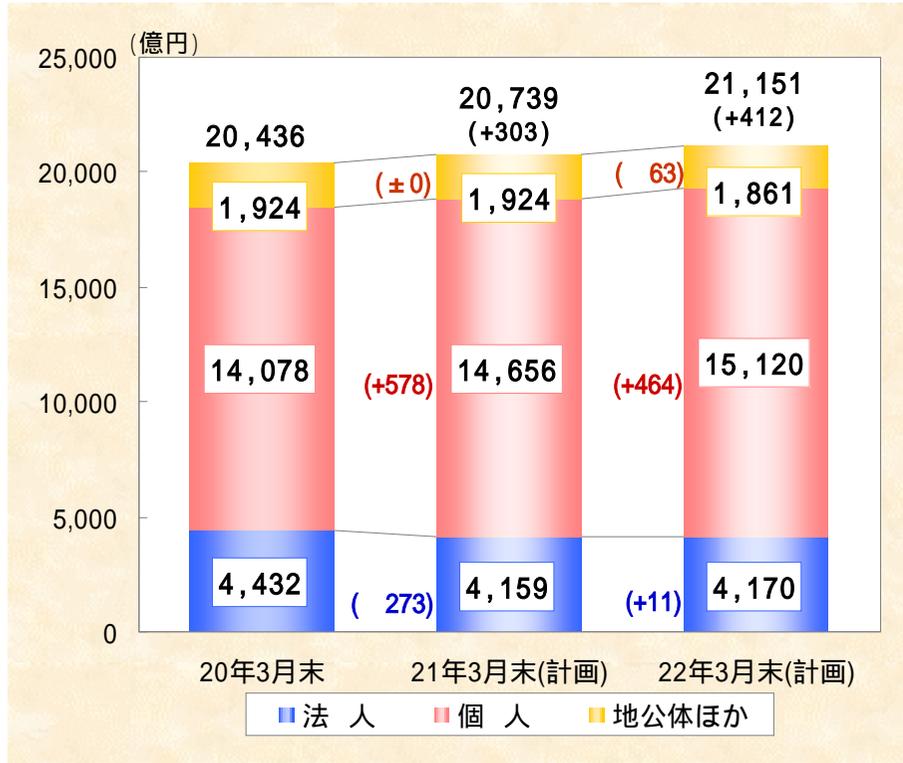
次期システム移行経費により増加
(20年度15億円 21年度10億円)

20年度:システム移行経費負担の
発生により減少
21年度:コア業務粗利益の増加に
より増加

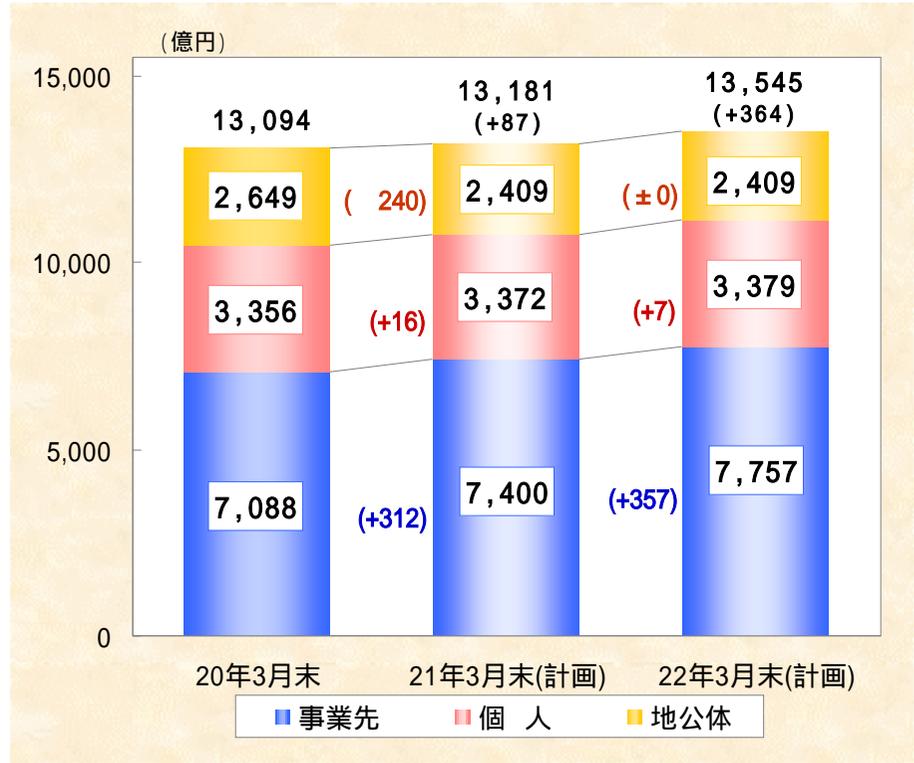
21年度は50億円台に



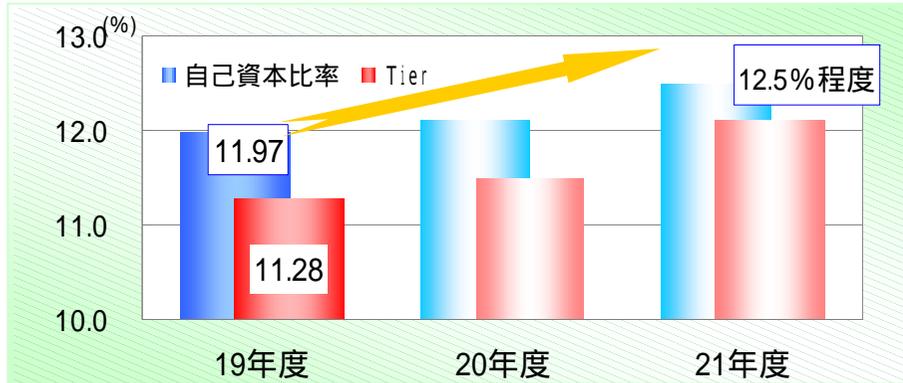
〈 預 金 予 算 〉



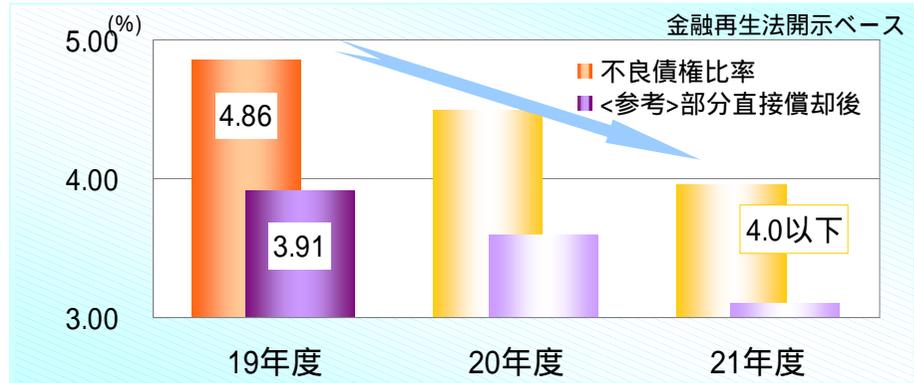
〈 貸 出 金 予 算 〉



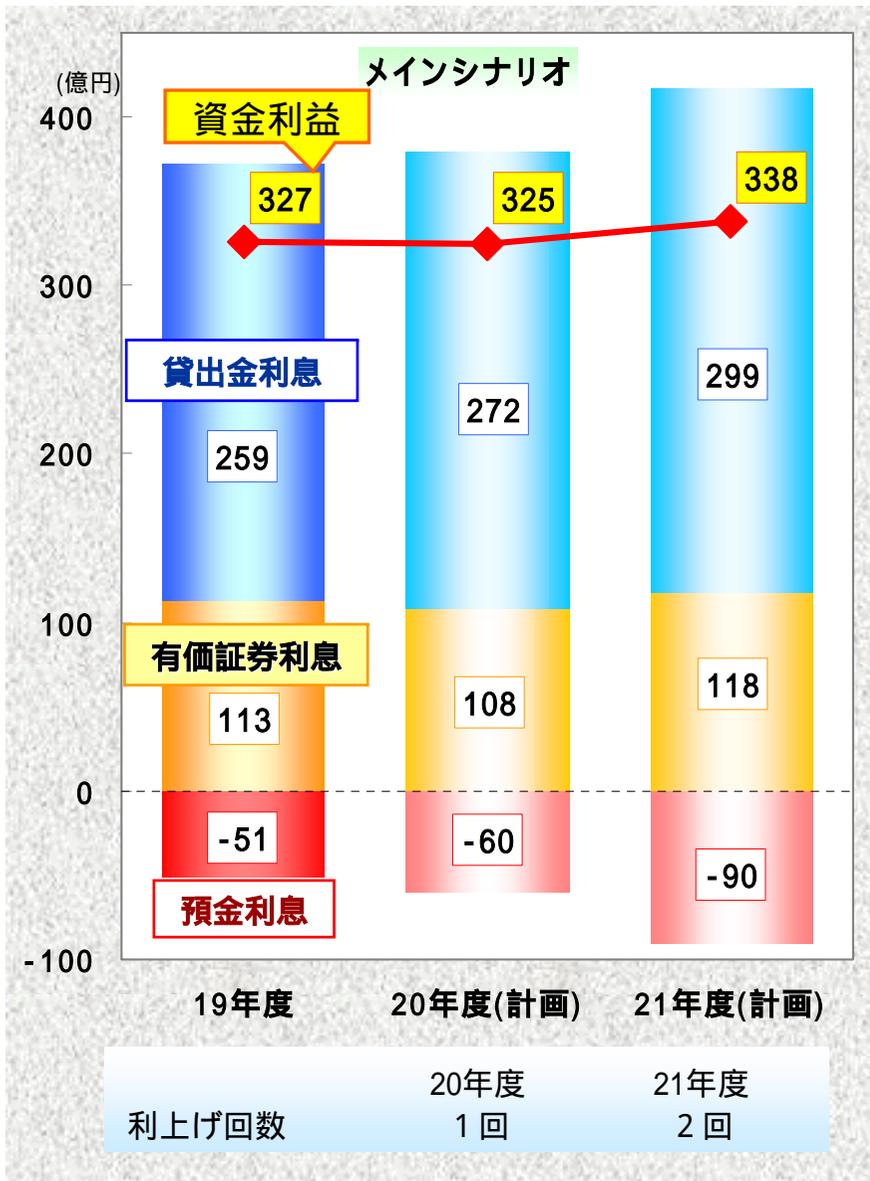
〈 自 己 資 本 比 率 〉



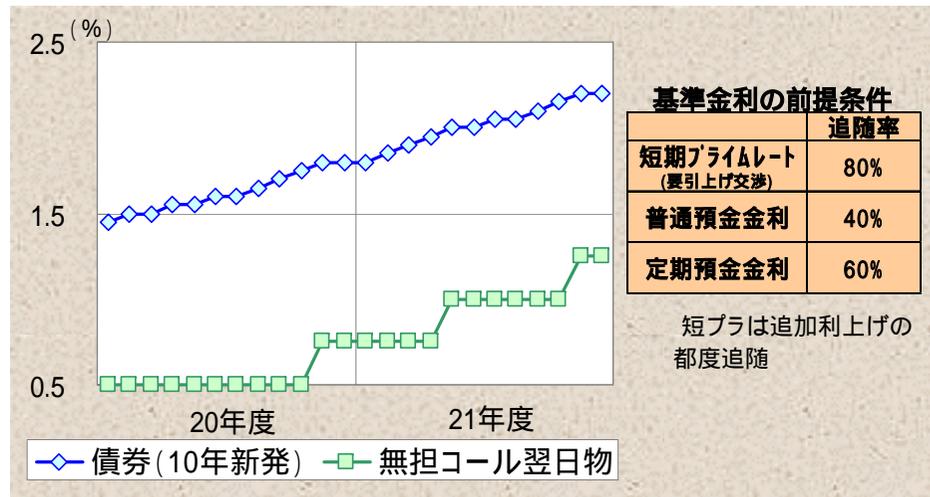
〈 不 良 債 権 比 率 〉



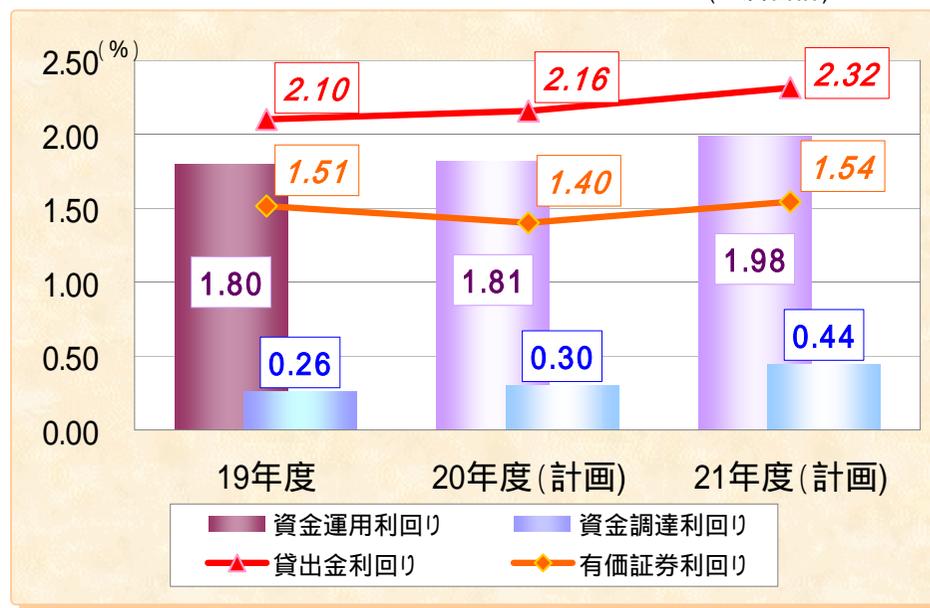
（資金利益計画）

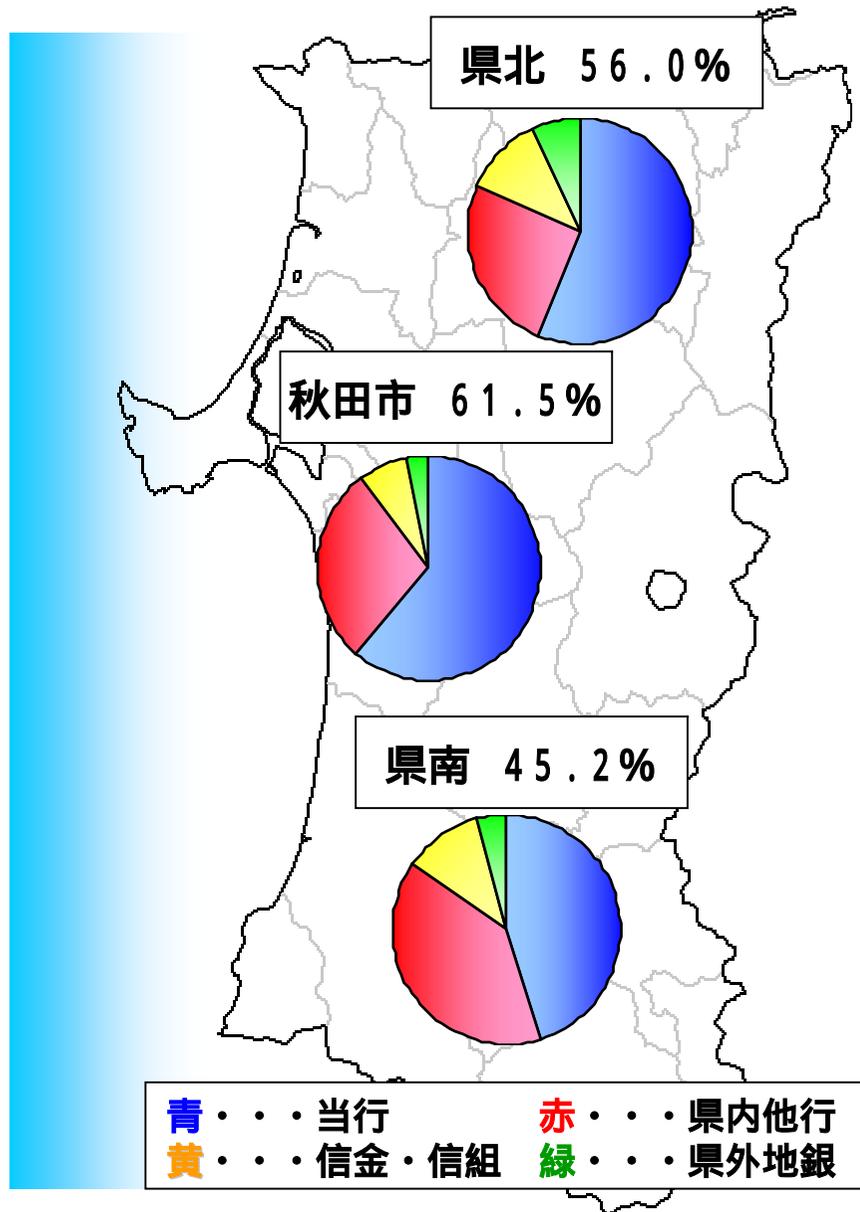


（金利シナリオ）



（運用利回り） (全店合計)



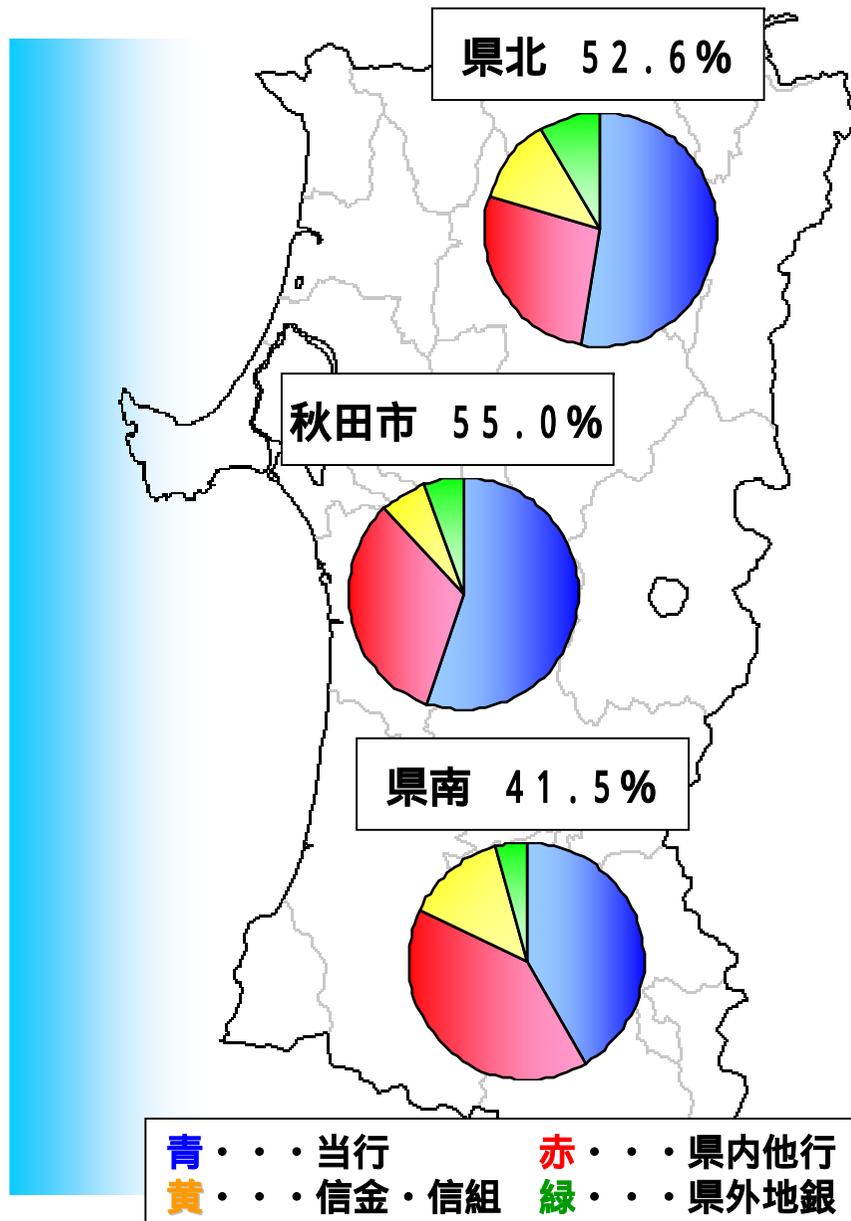


県内シェアは54.8%と高水準を維持

- 秋田県内を秋田市、県北、県南に分けると、いずれの地域においてもNo.1となっており、全県シェアは54.8%と高い水準である。
- 地域別に見ると、秋田市で0.6ポイント低下しているが、これは主に県預金の減少によるものであり、県預金の落込みを除くと残高は順調に増加している。
- 県南では、大曲・仙北および由利本荘地区では地区別シェアNo.1となっているものの、横手・湯沢地区で県内他行にシェアNo.1の座を譲っており、今後シェア拡大の余地は十分にある。

		秋田市	県北	県南	全県
当行	20年3月末	61.5%	56.0%	45.2%	54.8%
	19年3月末	62.1%	56.2%	45.2%	55.0%
県内他行	20年3月末	28.2%	25.7%	39.5%	31.0%
	19年3月末	27.5%	25.8%	39.4%	30.8%
信金・信組	20年3月末	7.0%	11.2%	10.9%	9.5%
	19年3月末	7.0%	10.9%	11.0%	9.4%
県外地銀	20年3月末	3.3%	7.1%	4.3%	4.7%
	19年3月末	3.4%	7.1%	4.4%	4.8%

(ニッキン 県内各店別預金速報より)



県内シェアは50.8%、引き続き50%超

- ・ 秋田県内を秋田市、県北、県南に分けると、いずれの地域においてもNo.1となっており、全県シェアは50.8%と高い水準となっている。
- ・ 地域別に見ると、県北でシェアが0.7ポイント増加する一方、県南で0.4ポイント減少しているが、これは臨時特例による財政融資の借換えが大きく影響している。
- ・ 県南地区では、当行シェアと県内他行シェアの差がわずか1.0ポイントと拮抗しており、今後県南地区へ経営資源を傾斜配分することにより、さらなるシェア拡大をはかる方針

		秋田市	県北	県南	全県
当行	20年3月末	55.0%	52.6%	41.5%	50.8%
	19年3月末	55.5%	51.9%	41.9%	51.1%
県内他行	20年3月末	33.1%	27.0%	40.5%	33.8%
	19年3月末	33.2%	27.9%	40.1%	33.9%
信金・信組	20年3月末	6.4%	11.9%	13.8%	9.6%
	19年3月末	5.9%	11.8%	13.7%	9.3%
県外地銀	20年3月末	5.6%	8.5%	4.2%	5.8%
	19年3月末	5.4%	8.4%	4.2%	5.7%

(ニッキン 県内各店別預金速報より)

- ＋ 残高ベースでは、県内が微減、県外は順調に増加
- ＋ 単純に利回りで比較すると県内が高いものの、利回り上昇幅は県外が上回る。

(百万円、%)

地区	19年度		前年度比	
	平 残	利回り	平 残	利回り
秋田市内	523,104	1.91	-5,881	0.20
県北	212,041	2.55	5,349	0.17
県南	213,867	2.55	282	0.16
(県内)	949,012	2.19	-249	0.18
北海道	29,999	2.08	-1,446	0.18
青森	26,816	2.50	566	0.28
岩手	9,716	2.21	-125	0.27
宮城	36,553	1.99	129	0.25
福島	36,075	2.31	-1,777	0.23
新潟	10,635	2.23	275	0.08
東京	128,896	1.25	13,731	0.40
(県外)	278,689	1.76	11,354	0.27
(全店)	1,227,701	2.10	11,104	0.20

(注) 本部貸出を除く

- ・ 県内は利回りが高い一方、地公体向け固定金利貸出もあるため利回り上昇幅は県外に比べ小さい。
- ・ 秋田市内の平残減少は県貸出の減少および県外への取引移管による。

- ・ 県外の利回りは、競争の激しい東京・仙台が2%を切る水準となっているが、その他はほぼ県内と同水準
- ・ 前年度比で見ると、スプレッド貸の割合が高い東京で大幅に上昇
- ・ 平残減少は大口のバルクの影響大、岩手は下半期より前年度比プラス転換を実現

- ・ 結果的には、平残および利回りとも県外が資金利益増加の牽引役になった。

ソリューション営業の強化

会員制経営総合支援サービス「あきぎんBiscom(ビスコム)」

19年4月から本格稼働、会員数は約1,000先
 ポータルサイトでの情報検索、商談等の機能に加え、eメールによる情報提供、
 個別の相談、会員向けイベント(セミナー・商談会)の開催などを実施
 <19年度実績>

情報発信	49,207件	個別相談	57件
------	---------	------	-----

アクセス情報は、本部と営業店が共有し、会員を相互にバックアップ



ビジネスマッチング

個別の商談の仲介や北東北3行(当行・青森・岩手)による商談会開催などにより、
 販路拡大をはじめとするお取引先企業の発展に貢献

	18年度	19年度	20年度(計画)
商談機会の提供	193件	417件	400件

今年度の北東北3行合同商談会は
 10月29日に東京で開催



産官学の連携を活かした企業支援

県内2大学への技術相談取次ぎ (18年12月の取次ぎ開始からの累計 30件)
 農林漁業金融公庫との協調による農業者向け融資スキームの取扱いを開始

多様な資金供給機能の提供

ABL~信用保証協会付「流動資産担保融資保証制度」による県内初の融資枠を設定(秋田県内初)、
 専門評価会社(トゥルーバーグループホールディングス株)と提携基本契約を締結
 ファクタリング(組成件数 4件)

秋田県内におけるシェア拡大

より一層地域に密着した活動を展開し、県内預貸金シェアの拡大をはかる。

渉外系の推進方針変更

ここ数年は新規開拓にウエートを置いてきたが、県内マーケットシェアの高さを勘案すると、既存先の取引深耕がより効果的

今後は既存先との接点をより増加させ、信頼関係を一層深めることを通じ、個別先のシェアを拡大する。

個別先シェアアップの積み重ねにより、県内シェアを拡大

本部支援機能の強化

業務提携による貿易・海外進出に関する支援機能の強化

M & Aや事業承継に関する支援体制の強化

動産担保、農業関連などの融資商品の充実

営業店との連携を強め、お客様の幅広いニーズに対応

県外における貸出ボリュームの拡大

運用力強化の観点から、県外での貸出金ボリュームの拡大を積極的に進める。

隣県 (岩手・青森)における推進強化

盛岡法人営業部(19年5月から活動開始、人員3名)

	19年3月実績	20年度9月(計画)
融資獲得額(累計)	10億円	20億円
新規貸出先数	25先	40先

青森支店(19年度増員)

事業先貸出金増加率 4.0%(19年度)

事業貸出先数 +13先(19年度)

福島県におけるネームバリューを活かした 営業の展開

郡山市・福島市への進出は昭和6年と古く、
地域での知名度は高い。

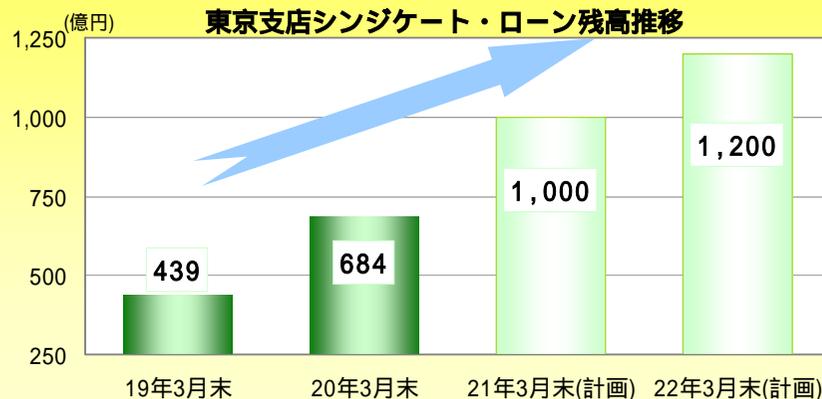
お取引先数

福島県 46千先 宮城県 19千先

郡山北支店(19年度増員)

事業先貸出金増加率 1.6%(19年度)

東京におけるシンジケートローン取組み強化



東北の中心地(仙台)における融資拡大

仙台支店

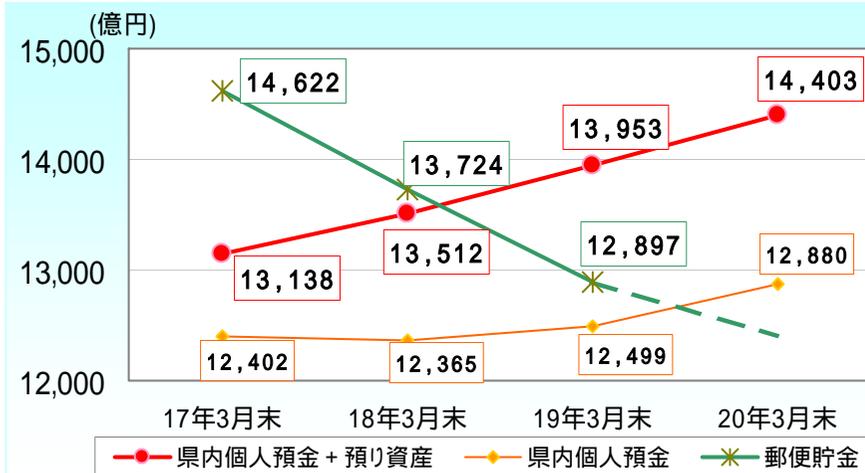
事業先貸出金増加率 6.4%(19年度)と高水準

その他地域でも、積極的にボリュームを拡大し、貸出金利息収入の増加を実現する。

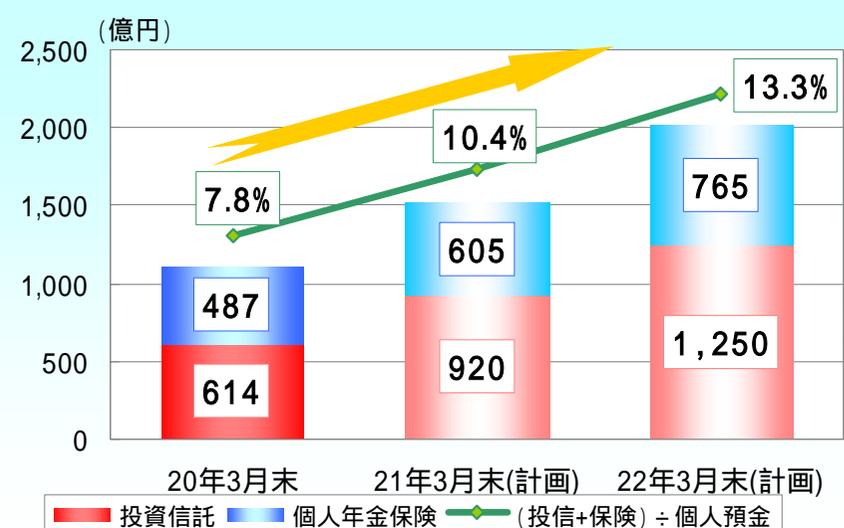
個人預金・預り資産の強化

秋田県内個人預金・預り資産残高はゆうちょ銀行を上回り、県内No.1
 今後も着実な積み上げをはかり、個人取引基盤の拡大をはかる。

秋田県内 当行個人預金・預り資産と郵便貯金の推移



投資信託・個人年金保険の残高計画



預り資産残高の積み増しにより、県内預金・預り資産合計残高は18年3月末に郵便貯金とほぼ同水準に
 その後、預金増強にも取組んだ結果、19年3月末に残高は逆転
 20年度は、県職員退職金の70%が当行へ振込みとなるなど、好調な滑り出し
 県内で圧倒的な個人取引基盤の確立を目指す。

< 預り資産増加に向けた施策 >

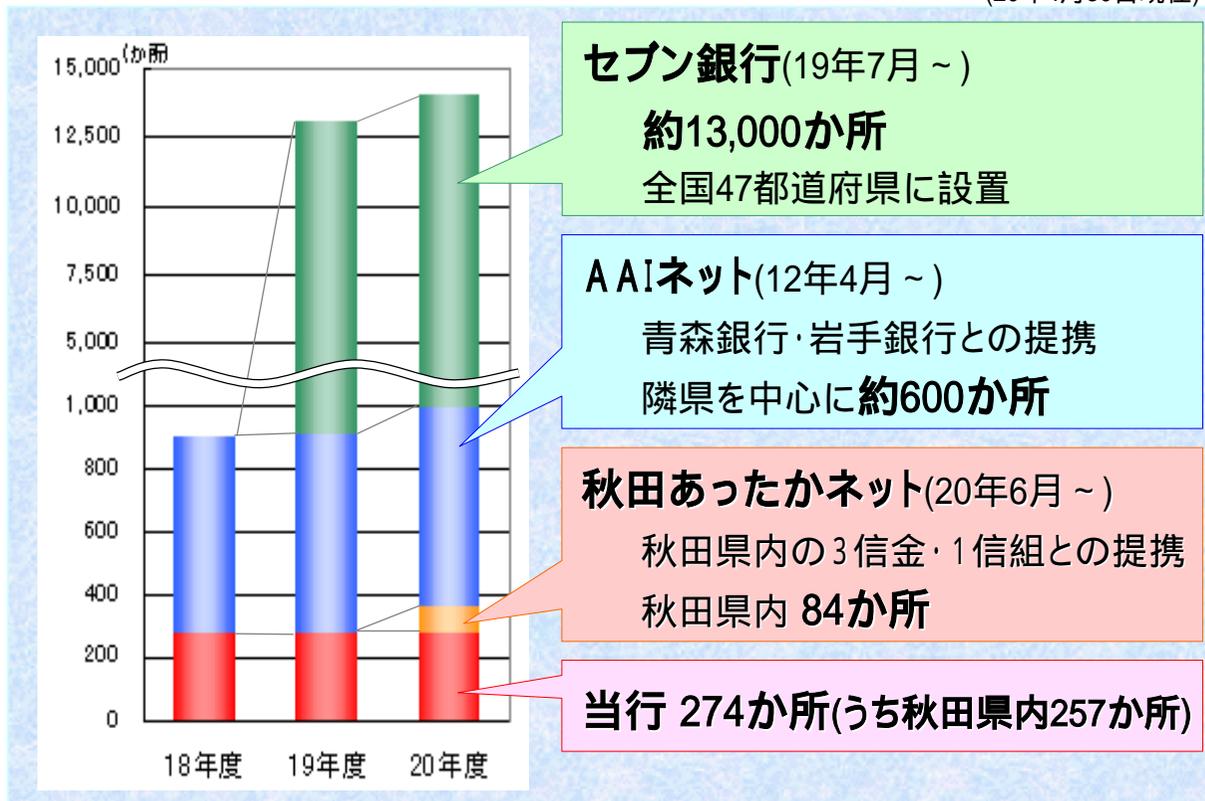
- 専担者のコアとなる店舗への配置
- 研修カリキュラムの拡充
- お客様向けセミナーの充実
- 相談コーナーの設置拡大(30か店 72か店)
- ネット販売、定時定額購入方式を導入予定

ATMネットワークの拡充

県内最多のキャッシュポイント、県外利便性の向上 幅広い層からの支持拡大

〈 自行手数料と同一のATM網 〉

(20年4月30日現在)



セブン銀行(19年7月~)
約13,000か所
全国47都道府県に設置

AAIネット(12年4月~)
青森銀行・岩手銀行との提携
隣県を中心に約600か所

秋田あったかネット(20年6月~)
秋田県内の3信金・1信組との提携
秋田県内 84か所

当行 274か所(うち秋田県内257か所)

全国合計
約14,000か所

県内合計 341か所
ゆうちょ銀行の290か所を
上回る充実した
ATMネットワーク

今秋のイーネット・LANs(ローソン)との提携開始により、秋田県内でのコンビニATMの展開を実現
他の金融機関を圧倒するATMネットワークを確立

「とくだね倶楽部」の活用

ポイントサービスによる取引集中化・メイン層拡大

〈 サービス内容 〉

取引内容により付与されるポイントに応じ、4つのステージを設定
ステージが上がる毎に各種優遇が増加

相互メリット

お客様はATMをはじめとする各種手数料・ローン金利の優遇を享受

当行は取引集中化やメイン層の拡大により、営業基盤を一層強固に



<p>ステージ 1 7~9点</p> <p>特典 インターネットショッピングの基本手数料無料！ ひがる月</p>	<p>ステージ 2 10~17点</p> <p>特典 さらに、ATM時間外手数料無料！※ 振込手数料も無料！ しげる葉</p>
<p>プレミアム ステージ 23点~</p> <p>特典 振込手数料の割引が最大！さらに、年に1回プレゼントも豪華にあげます。 もちろんATM時間外手数料も無料！※ むすぶ実</p>	<p>ステージ 3 18~22点</p> <p>特典 振込手数料をさらに割引！ 加えて、ICカード発行・更新手数料や貸金庫手数料も優遇！ もちろんATM時間外手数料も無料！※ さく花</p>

※当行およびセブン銀行ATMが対象となります。

クレジットカード業務の展開

クレジットカード本体発行による取引メイン化の推進

〈 当行グループのクレジットカードの状況 〉



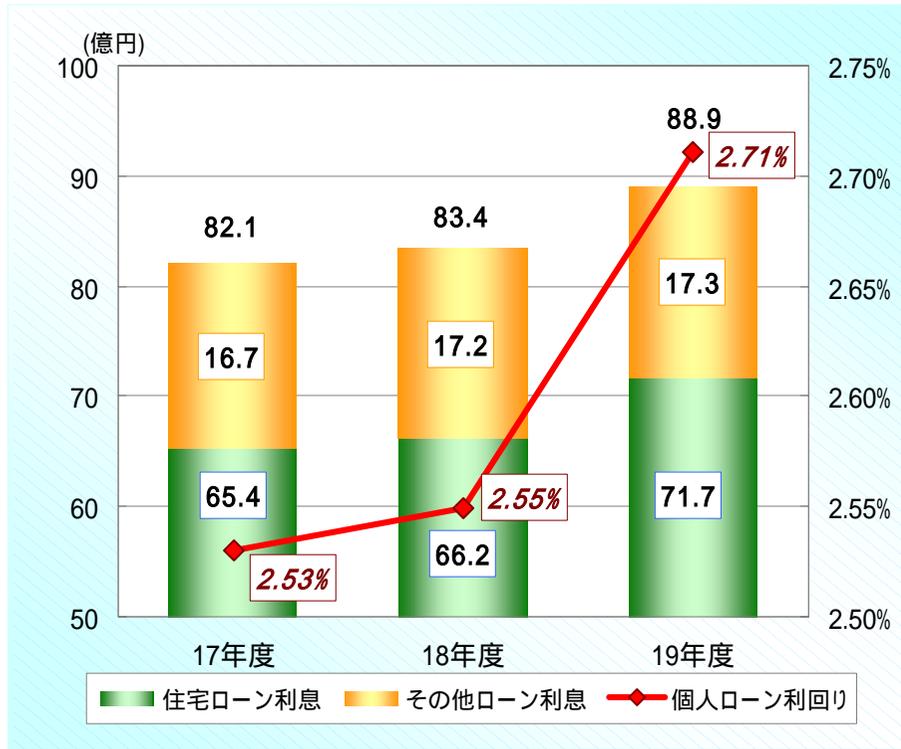
クレジット一体型ICキャッシュカード
「Only One」取扱開始(19年4月~)
・東北地銀初の銀行本体発行
・初年度実績 約32,000枚

年会費・ATM手数料無料などの特典により、銀行取引と一体化した取引メイン化を推進

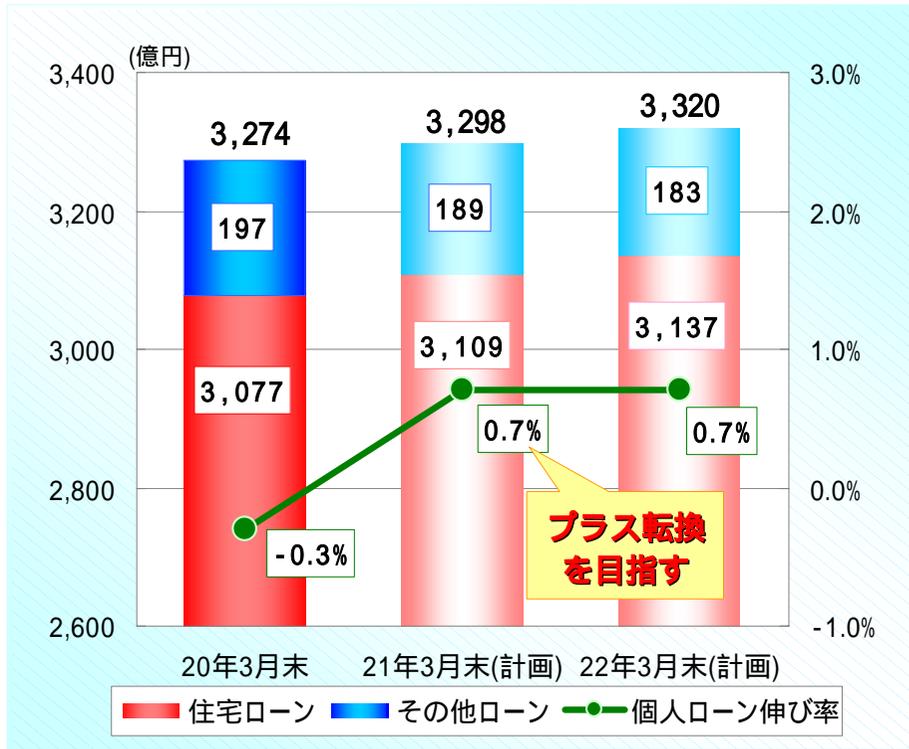
本体・関連会社トータルでの会員数・利用額増加により、グループ全体での収益極大化を目指す。

個人ローンの推進

《 個人ローンの貸出金利息実収・利回り 》



《 個人ローン残高・伸び率推移 》

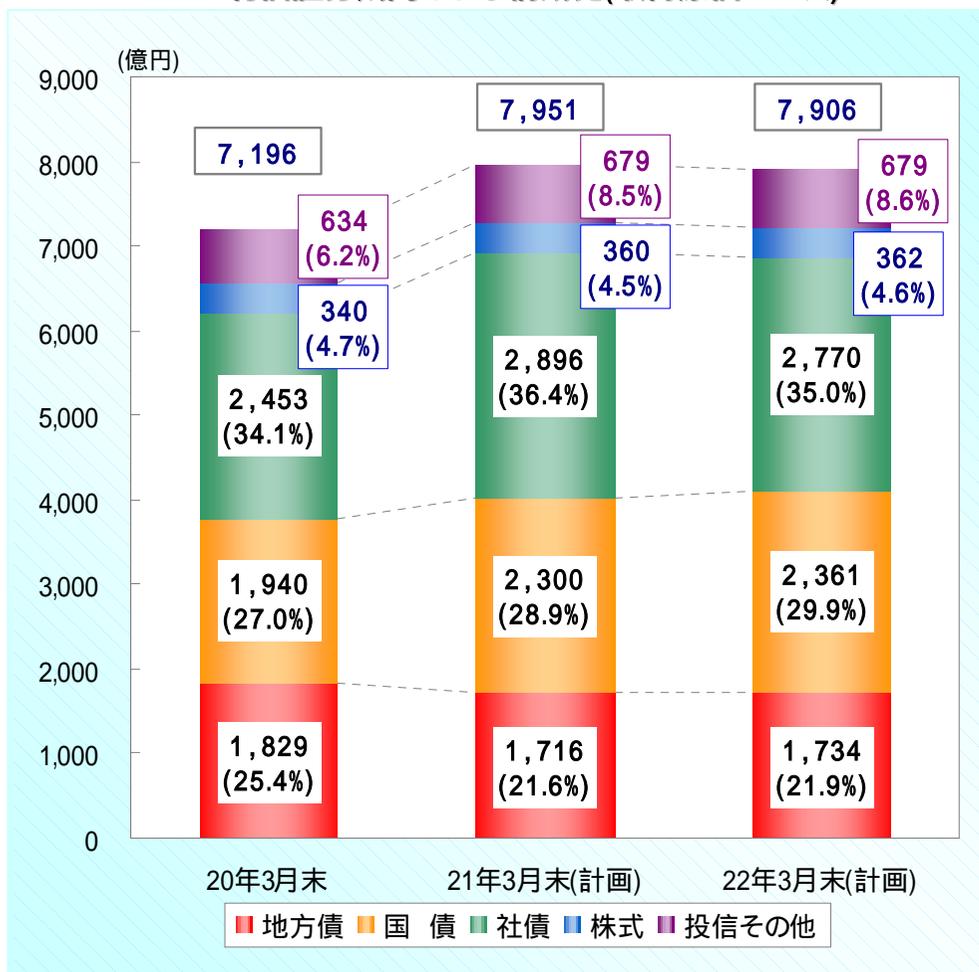


個人ローン残高が伸び悩む中、住宅ローンの金利選択長期化、ミドルレートローンの推進により利回りは上昇しており、利息実収は増加基調にある。

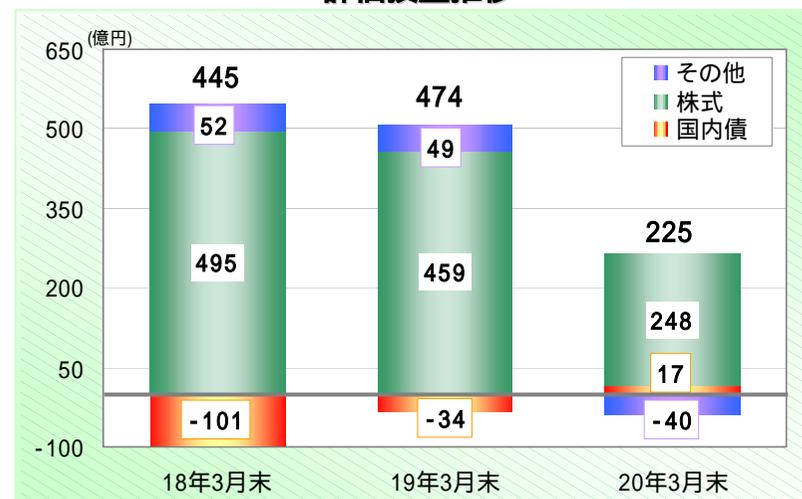
個人ローンプラス転換に向けた施策
 個人ローンセンター(県南・県北)の日曜営業開始
 “速決名人”(19年10月)などお客様のニーズに合わせた商品の投入
 地銀住宅ローン共同研究会への参加

有価証券利息・配当金は今後も100億円以上の確保を目指す。
< 具体的な取組み >
 短期資金の効率化による長期運用へのシフト(200億円)
 投資信託による運用を引き続き強化

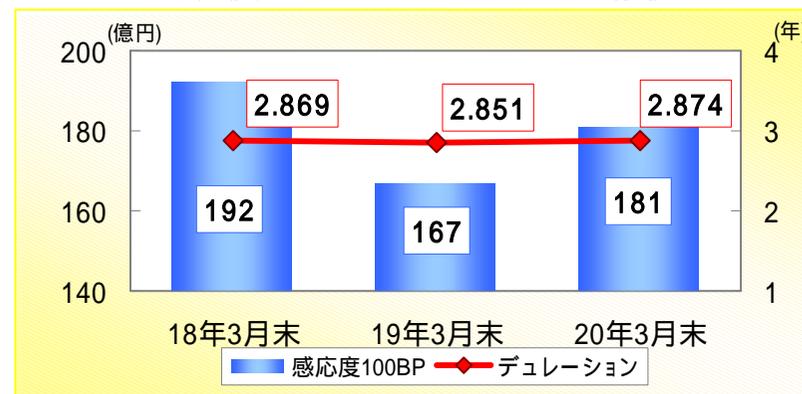
有価証券残高および構成比(取得原価ベース)



評価損益推移



感応度およびデュレーションの推移

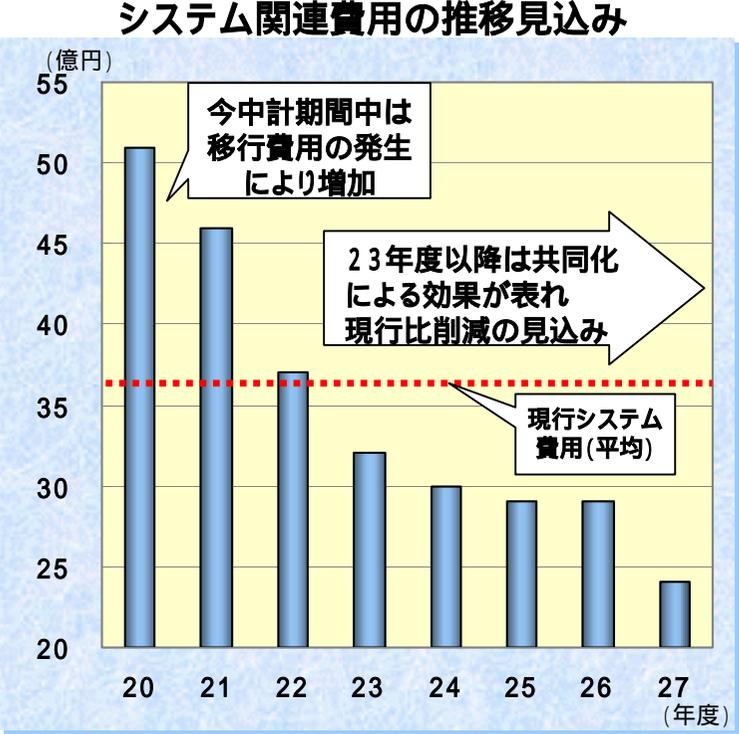
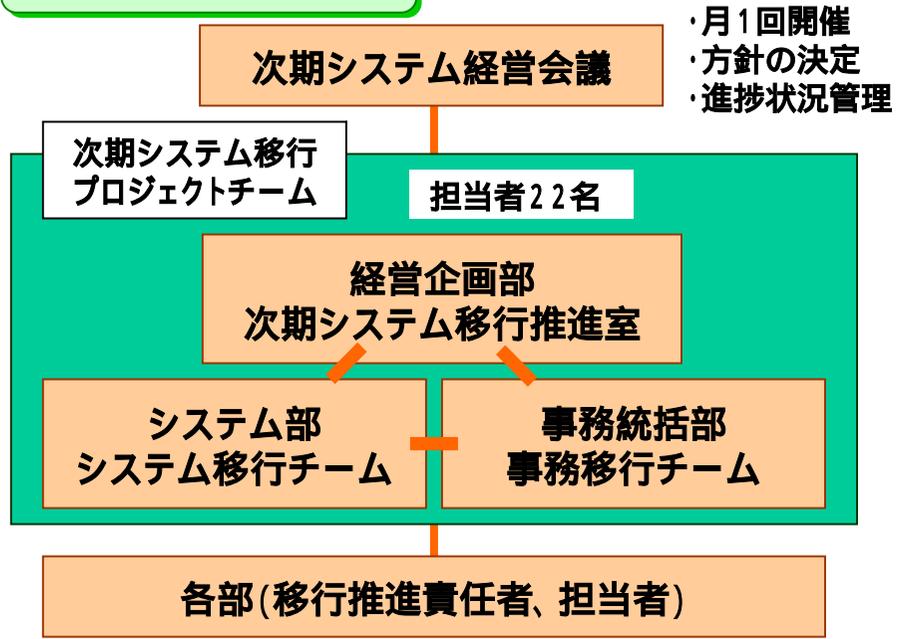


平成22年5月に、NTTデータが運営する「地銀共同センター」へ移行予定

目的

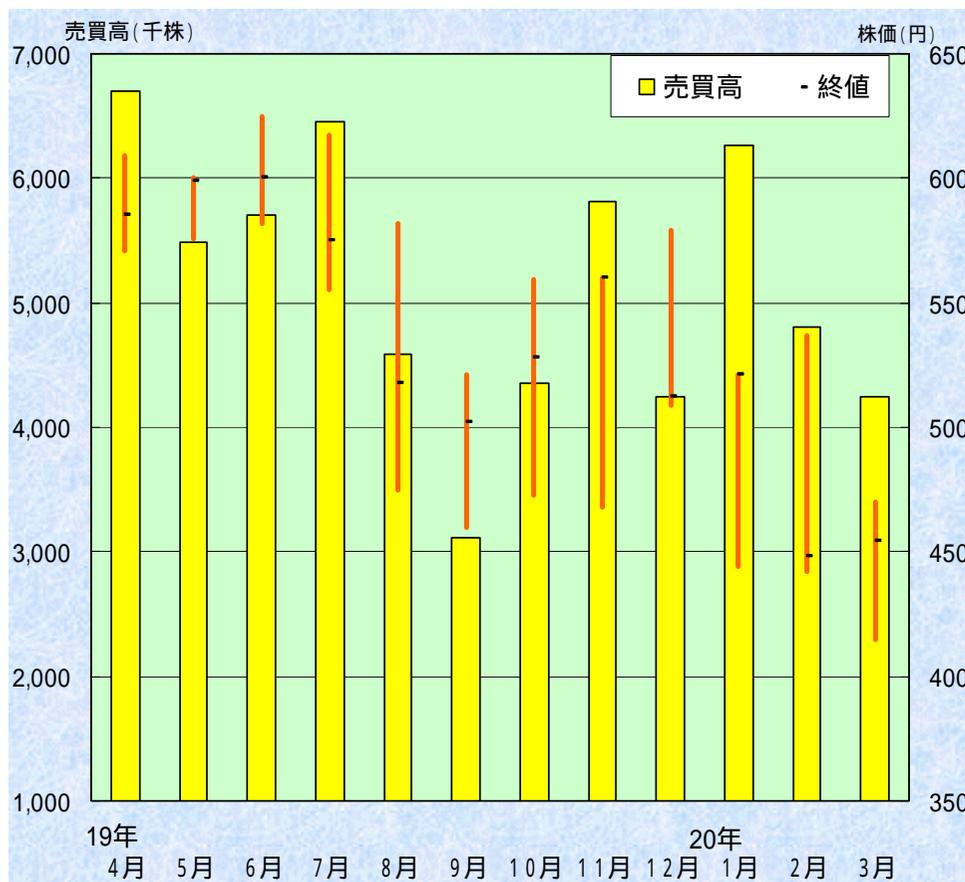
参加行との按分によるシステム関連費用の削減(10年間合計で**73億円**)
 柔軟性の高いシステムであり、商品開発の迅速化が可能
 システム面のみならず各種法令改正への共同研究による負担軽減、あるいは共同商品(例 投資信託)の販売など、経営力の強化がはかれる。

行内の移行体制



当行株価の推移 (19年度)

(千株、円)



年月	売買高	時間外売買	高値	安値	終値	日経平均
19年 4月	6,697	3,335	609	571	585	17,400
5月	5,493	1,160	600	576	599	17,875
6月	5,710	1,102	625	582	600	18,138
7月	6,455	3,069	617	555	575	17,248
8月	4,588	236	582	475	518	16,569
9月	3,117	175	521	460	502	16,785
10月	4,351	409	559	473	528	16,737
11月	5,814	400	560	468	560	15,680
12月	4,243	236	579	509	512	15,307
20年 1月	6,257	267	521	444	521	13,592
2月	4,804	329	537	442	448	13,603
3月	4,250	452	470	415	454	12,525

- ・ 第1・四半期は株式市場の上昇基調を受け続伸、6月に最高値(625円)を記録した。
- ・ その後はサブプライムローン問題の影響などによる株価下落を受け、徐々に値を下げ3月に最安値(415円)を記録、年度終値は454円となった。

株主還元の推移 (11年度以降)

(金額単位：百万円)

	当期純利益	配当額	配当性向	自己株買付額	株主還元率
平成11年度	4,356	1,238	28.4%	1,695	67.3%
平成12年度	2,442	1,010	41.4%	1,227	91.6%
平成13年度	-9,583	1,000	-10.4%	844	-19.2%
平成14年度	3,429	993	29.0%	379	40.0%
平成15年度	4,569	991	21.7%	0	21.7%
平成16年度	4,156	987	23.7%	799	43.0%
平成17年度	4,836	1,083	22.4%	659	36.0%
平成18年度	4,945	1,172	23.7%	0	23.7%
平成19年度	3,461	1,166	33.7%	1,120	66.1%
平均	2,512	1,071	42.6%	747	72.4%
(13年度除く)	4,024	1,080	26.8%	735	45.1%

11年度から19年度までの
自己株消却累計
1,511万株

19年7月24日
ToSTNet - 2による自己株取得を
実施
(取得結果:単価584円、
株数191.9万株)
3月に200万株の消却を実施

当行の基本方針

配当額については、安定配当の維持を基本に、当期利益水準を勘案し検討する。
自己株式取得については、1株あたり株主資本の増加を目標に、今後とも検討を進める。
引き続き高い株主還元率の維持を目指す。

秋田銀行 会社説明会



本資料には、将来の業績にかかわる記述が含まれています。これらは、その内容を保証するものではなく、経営環境の変化等によるリスクや不確実性を内包することにご留意ください。